

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1142

「NEWSな濟生人」

朝起きられない、立ちくらみ、
倦怠感……
実は病気が原因かも



8

August 2024

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani

人権尊重社会への遠い道

7月3日の最高裁大法廷は、旧優生保護法を立法当時から違憲である判断し、国の損害賠償責任を認める初の統一見解を示した。

議員の立法行為は、違憲であると断じている。新聞で紹介されている法律専門家の見解も最高裁の判断を支持する。国民も当然の判決だと受け止めているだろう。むしろ旧優生保護法が1948年7月に制定され、19

96年に母体保護法に改正されるまで長く存続した事実には驚く人が多いだろう。

旧優生保護法制定当時の国会の議論を調べてみると、1948年2月20日の衆議院本会議で河合良成厚生大臣は、「憲法の本則に基づき個性尊重の時代になってきたので、強制的に断種その他をただいまやる考えはない」と答弁しているように新憲法で定められた基本的人権との関係は意識されていたようだ。しかし、その後優生保護政策は、旧厚生省を中心に推進された。研究論文などによると、遅くとも1983年には強制優生手術に関する規定の改正などが旧厚生省内部で検討されたようだが、旧優生保護法は議員立法で、その後の改正も議員立法だった経緯などにより改正までには踏み切れなかったようだ。

旧優生保護法を旧厚生省で所管していたのは、児童家庭局母子衛生課(当時)であった。私は、1985年7月から1年間、この局内の母子福祉課長を務めていたが、局議で旧優生保護法の改正問題を議論した記憶はない。児童家庭局は、小世帯で風

通しの良い組織だったが、医系技官を課長とした母子衛生課は、福祉を担う他課とは孤立していた。

☆ ☆
近年様々な人権問題は、次々に登場する。例えば引きこもり、認知症高齢者、セクハラ、パワハラ、カスハラ等が挙げられる。一方では古くからある障害者、貧困者、被差別部落、元受刑者等の人権問題は解決せず、複雑化している。

国内では人権に対する反発や反感に基づく言動が見られる。特にネットには誤った知識による差別発言が掲載される。知識が乏しい人は、鵜呑みにしてしまい、加害者になってしまうこともある。この種の情報のアークセスが多いためか、上位にランクされ、差別が一層増長される。大学生だったころから貧困や公害問題を勉強し、活動していた私にとっては、「日暮れて道遠し」という感が強い。

しかし、人権は、人々の不断の努力によって守られて、向上してきた歴史である。高い障壁があろうとも歩みを緩めてはいけないと思う。

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。
いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



三井住友銀行

不易流行(ふえきりゅうこう): 不易は永遠性、流行はその時々々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。



8月のたよりが聞こえる

アオリイカ

丸みを帯びた胴と波打つヒレが特徴的なアオリイカ。目の周りのエメラルドグリーンも美しい。日

本に生息するのはシロイカ・アカイカ・クワイカの3種類で重量が5キロを超えるアカイカは「レッドモンスター」と呼ばれる。個体が大きいからモンスター。餌となる小魚を追い掛け回す。あおり運転をするわけではない。視力は0・6で、魚の0・1に比べて目は良いが自動車免許取得に

はあと0・1足りない。なので眼鏡等が必要。よって小魚にとっては、あおり運転をされる心配はご無用！アオリイカの捕食行動はいわゆる「イカパンチ」。最も長い触腕を瞬時に伸ばしてアジやイワシを一撃、弱

ったところをほかの足で抱えて食べる。そのため小魚はあおり運転をされる前に素早く逃

げる必要がある。親父ギャグはこの辺にしておいで、肝心のアオリイカ。「イカの王様」と呼ばれるほど甘み・うま味が強い。スーパージョウロウに流通するとは少ないので、食べるには上司に料亭に連れて行ってもらうか自分で釣るしかない。ではどのようにして釣るのか――。

一般的なのは目次のイラストにもある餌木と呼ばれる疑似餌を使う「エギング」。エギに似ているがエビに似せて作ったのではない。江戸時代、海中に落ちた漁火の松明にイカが反応したのが由来らしい。歴史を学んだところでいよいよ実釣。潮の流れや風向きを読み、餌木を操って釣り上げたアオリイカ。耳（エンペラ）付近を見ると二つの黒い斑点「バンダマーク」がある。自らは針にかかってしまったが、自分と同じ目に合わないように仲間を警戒を促していると言われている。

8月はレジャーで車を運転する人も多くなる。人間もアオリイカのように仲間を思いやり、くれぐれも、あおり運転はしないように！

表紙のことは 殻を破る勇気は進化への第一歩

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

硬い殻を背負い身を守る貝類。イカ類は驚いたことに、殻を背負うことをやめて進化し自由を手に入れた貝の仲間。透明感のある身体で水中を漂い、時に素早く動き回るアオリイカもそのひとつです。色を

変え泳ぐ姿は優美です。自由を手にし高い運動能力を得て美味しいものも食べられるようになりました。変化するというのは勇気があるもの。でも勇気は時に大きな実りをもたらします。

表紙に描かれている陸上の植物に、驚かれた方がいたかもしれません。イカの産卵場所（海中）に、（陸上の）樹木の枝をまとめて入れることがあります。近年は磯焼けで産卵に必要な海藻が少なくなり、その代役を果たすものです。



濟生

SAISEI

CONTENTS

AUGUST, 2024

NEWSな濟生人

朝起きられない、立ちくらみ、倦怠感……実は病気が原因かも

〈大阪〉泉尾病院 小児科医長

06

磯浦喜晴さん

濟生会交差点

《日本で働く！看護補助者》ミャンマーから日本へ。国境を越え看護師をサポート／《デジタル活用で業務効率化》音声認識技術を医療の場に。看護師向けアシストシステム開発／《独自システム開発》試行錯誤を重ねた医療機器の管理から、病院全体の業務負担軽減に発展／《看護専門学校の災害救護訓練》3校の看護学生が合同訓練。息を合わせて負傷者を救護

10

連載 機関誌「濟生」が創刊100年！

20

巻頭コラム 濟生会の不易流行論

人権尊重社会への遠い道 理事長 炭谷 茂

03

8月のたよりが聞こえる アオリイカ

表紙のことは 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

17

岡山濟生会子どもメディカルラリー

22

この人 瀧内公美

24

口福につぼん

吉井省一

26

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

28

TOPICS

30

載々、大雑報

78

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

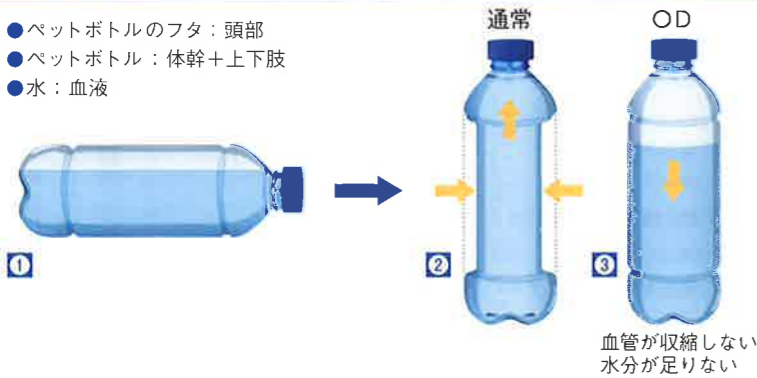
起立性調節障害 (OD※) とは

※Orthostatic Dysregulationの略

起立(立ち上がる・上体を立てている)時に、体内のメカニズムがうまく機能しないために起きる頭痛、腹痛、めまいなどの様々な症状

水がある程度入ったペットボトルを例に、ODのしくみを解説

- ペットボトルのフタ：頭部
- ペットボトル：体幹+上下肢
- 水：血液



「フタ=頭」「水=血液」に見立てて説明します。

- ① ペットボトルを寝かせた状態では【頭の方にもしっかりと血液が流れています】
- ② そこからペットボトルを立たせると、血液は重力の影響を受けて下に下がりますが、体内には、脳血流に影響が出ないようペットボトルが少し細くなるような機能が備わっています
- ③ しかし、ODの場合はそれがうまくいかない、もしくは普段の水分摂取量が少ない、などの理由で【脳血流が減少してしまいます】

症状は4タイプに大別

- ① [起立直後性低血圧]
起立直後の血圧低下からの回復に時間がかかるタイプ
- ② [体位性頻脈症候群]
血圧の回復に異常はないが、起立後心拍の回復がなく上昇したままのタイプ
- ③ [血管迷走神経性失神]
起立中に急激な血圧低下によっていきなり失神するタイプ
- ④ [遷延性起立性低血圧]
起立を続けることにより徐々に血圧が低下して時に失神に至るタイプ

鈴木 保護者をはじめ周囲の対応も重要に

鈴木 悪循環ですね……。

磯浦 不登校になって体を動かさず家の中で過ごす日が続く、重症化して終日頭痛などの症状が続くようになります。この病気に理解がないと「朝起きられないのは夜遅くまで遊んでいるからだ」「学校に行きたくないから仮病を使っている」「怠け癖がついた」などと叱ったりします。そうして親子関係が悪くなるケースが少なくありません。

鈴木 不登校の原因にもなる病気だということあまり知られていないような気がします。

磯浦 そこが起立性調節障害の重大な問題といえます。先ほどお話ししたように自律神経の失調で朝なかなか起きることができず、食欲がなく、倦怠感、頭痛、立ちくらみなどの症状で学校を休んだり遅刻したりしますが、午後になると回復していきます。夜には元気になるスマホを見たりゲームに熱中したりして目がさえ、寝不足ですます朝起きられなくなります。

鈴木 不登校の原因にもなる病気だということあまり知られていないような気がします。

午後になって本調子でも夜に寝付けない悪循環

鈴木 不登校の原因にもなる病気だということあまり知られていないような気がします。

磯浦 過敏性腸症候群などが併存しているケースもあります。小児期に起立性調節障害の診断を受けた人の約4割は成人期に持ち越すともいわれています。

朝起きられない、立ちくらみ、倦怠感……
実は病気が原因かも



〈大阪〉泉尾病院 小児科医長

磯浦喜晴さん

左はインタビューの鈴木さん

病気の早期発見・治療には、保護者や学校の理解が重要

鈴木 この二つがバランスよく働くことが大切ですね。

磯浦 人の体は立ち上がると重力によって血液が下半身に溜まりやすくなり、静脈から心臓へ戻る血液量が少なくなると血圧が低下します。これを補うために交感神経が興奮して動脈を収縮させ、血圧を上昇させることで各臓器への血流を維持しようとする。

鈴木 自律神経系の乱れが原因なのですね。自律神経には交感神経と副交感神経があります。前者はアクセル、後者はブレーキのような役割が機能し健康が保たれています。

鈴木 起立性調節障害はあまり聞き慣れない病名だと思いますが、どのような病気ですか。

磯浦 自律神経の失調に伴って主に脳への血流が低下する病気で、頭痛、腹痛、めまいなどさまざまな症状が現れます。

鈴木 自律神経系の乱れが原因なのですね。自律神経には交感神経と副交感神経があります。前者はアクセル、後者はブレーキのような役割が機能し健康が保たれています。

磯浦 起立性調節障害はあまり聞き慣れない病名だと思いますが、どのような病気ですか。

鈴木 起立性調節障害はあまり聞き慣れない病名だと思いますが、どのような病気ですか。

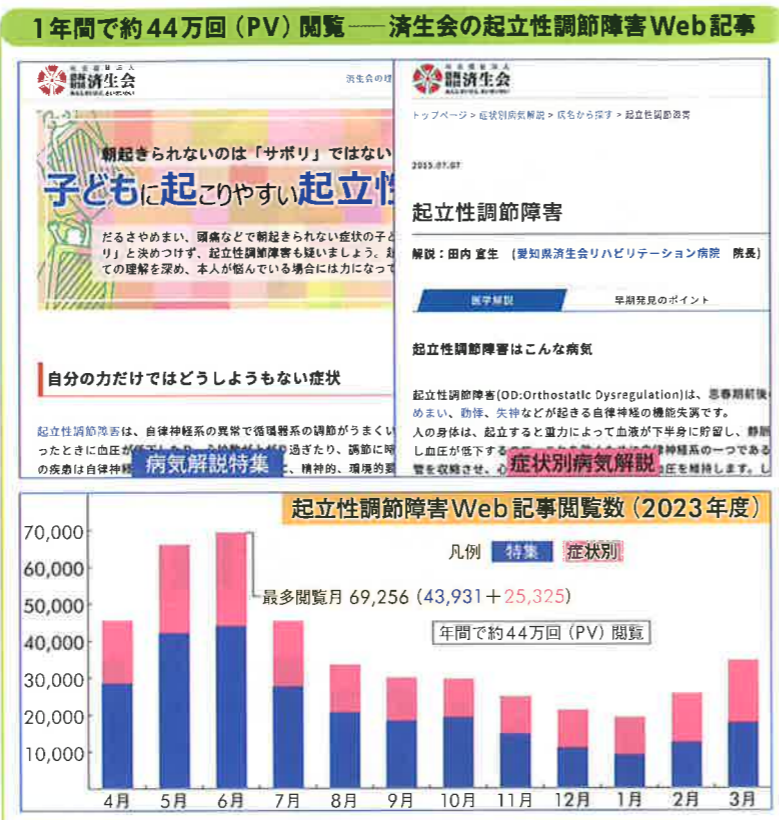
磯浦 起立性調節障害はあまり聞き慣れない病名だと思いますが、どのような病気ですか。

*写真撮影時のみマスクを外しています

なりませんね。どうすればよいのですか。
磯浦 とりあえず、朝無理やり起こしたりしないで、部屋のカーテンを開けて15〜30分ぐらいいはそのままにしてあげてください。



本人は体調が悪くても外見は元気に見られることが多い「起立性調節障害」。周囲に理解されないことで不登校になってしまう。そんな子どもを減らしたい



**適切な治療と生活指導で
 健やかな日常を取り戻せる**

鈴木 治療法を教えてください。
磯浦 まず、患者と保護者に起立性調節障害がどのような病気かを説明します。特に、保護者に対して、患者が朝起きられず学校に行けないのは怠けていたり、仮病を使ったりしているのではないと理解してもらいます。

鈴木 病気が原因であるということをお分かっただけで済むことが重要だと。
磯浦 病気が原因である以上、気の持ちようだけではまず治りません。その上で、生活指導として水分や塩分をしっかりと摂取し血圧

それでもなかなか起きられない場合には、子どもに優しく理由を尋ねてあげましょう。

**気になる症状があったら
 すぐに受診を**

鈴木 起立性調節障害の治療に携わるようになったきっかけは。
磯浦 学校は勉強だけでなく、子どもが人間関係を含め社会性を学ぶ場です。そんな重要な役割を担う学校に行けない不登校の子どもを一人でも多く救いたいと考えました。

鈴木 そんな思いが……。
磯浦 起立性調節障害は治る病気であり、早期に診断、治療することが重要です。当院には地域の小児科クリニックなどから原因不明の頭痛や吐き気、腹痛の患者が多く紹介されてきます。

鈴木 子どもがサボっていると考えるという保護者が医療機関を受診させるといことは考えにくいですね。
磯浦 どの病気も早期発見、早期治療が重要ですが、起立性調節障害も同じです。症状が軽いほど対処法が多く、有効な治療に結びつきやすいと思います。時間が経過するほど



また、並行して起立試験(安静の状態でも横になった後に10分間起立して心拍数や血圧の変化、自覚症状などを調べる検査)を行います。

が低下しにくいようにすることに加え、朝昼晩の食事で栄養を取り、体を動かし、就寝時間を決め夜ふかししないなど規則正しく毎日を過ごすように心がけてもらいます。学校では屋外の活動では血管が広がって血流が滞りやすい日なたの暑い場所は避けて、日陰に入るようにアドバイスします。

鈴木 細かいことですが、その積み重ねが大事なのですね。
磯浦 生活指導で症状が改善しない場合はミドドリン塩酸塩などによる薬物療法を検討します。ミドドリン塩酸塩は交感神経を刺激し、血管を収縮させて血圧を上げる効果があり、自律神経不全や起立性低血圧などに用いられます。



医療機関と学校が連携を深め、疾患啓発をしていく必要があり、地域全体で子どもを見守る体制を整えていくことが大切です。子どもたちが安心して健やかに育つ社会にしていきたいために今後も努力して参ります。

鈴木 メンタル面もケアが必要なのではないでしょうか。
磯浦 精神的ストレスで心身のバランスが崩れ、一人で悩みを抱える子どもに対しては心理的ストレスを軽減することが重要であり、カウンセ

今回の取材を通して「起立性調節障害」という病気を初めて知りました。子どもが朝に起きられない、倦怠感があると訴えても、仮病や怠けている、さぼっていると思われがちですが、この病気の特徴であることを保護者の皆さんに広く知っていただくことが重要だと感じました。
 (鈴木香純)

悪循環の中で症状が重くなり、治療も時間がかかるようになります。
鈴木 早期発見のポイントを教えてください。
磯浦 この病気は思春期に発症しやすく、注意すべき症状はいくつかあります(図参照)。また、親が子どもの頃に同じような症状が見られたというケースも珍しくなく、遺伝が関係している可能性が指摘されています。気になることがあったら小児科などを受診することをお勧めします。

③ 日本語がまだまだ分からず大変です。平仮名や片仮名だけでも難しいのに、漢字というものを知って驚きました……。それでも勉強して、今では小学1年生レベルの漢字は読むことができます！

④ 介護福祉士の資格をとることが私の目標です。



ムダーラインさん

① 私は6階病棟でチッさんと同じようにベッドメイキングや洗濯などを担当しています。ミャンマーでも総合病院で同じような仕事をしていました。

② 日本のことが好きで、看護補助者として働くことを10年ほど前から考えていました。日本は頑張れば頑張るほどいろいろなチャンスがあるのではないかと思っています。

指導者側より

3人は真面目でいつもニコニコしていて、職員皆に親しまれています。分からないところは、3人の中や看護補助者同士で教え合い助け合っているのが、指導者側としてコミュニケーションに関して苦労したことはほとんどありません。彼女たちに内定を出したのは、昨年8月。そこから業務で使う資料や院内のシステムを見直しました。3月の受け入れまでに漢字の箇所は片仮名にするなどの改善をしました。

それを元に彼女たちが頑張ってくれて、今では自発的に仕事を回せるようになり、とても助かっています。

環境の違いもたくさんあると思います。これからも健康に気を付けながら、看護職の一員として一緒に頑張っていきましょう！



えはお風呂の介助をしたときに、患者さんが「ありがと」「助かったよ」と言ってくれると、本当にうれしくなるしもっと頑張ろうと思います。

③ 日本食材の買い物には、ヤオコー(食品スーパー)に3人でよく行きます。日本の料理は甘いと感るので、ミャンマー料理を毎日作ります。ミャンマー料理ではナマスなど川魚の出汁をベースとした。モヒンガー、という麺料理が有名です。

④ 日本語を一生懸命覚えていくところです。職員の皆さんが工夫しながら優しく教えてくれるのでとても助かります。介護福祉士の資格をとって皆さんに恩返しをすることが私の目標です。



イテップウーチョーさん

① 私は7階病棟で備品の整理や患者さんをお風呂に連れて行く、患者さんから頼まれたものを売店に買いに行くといった仕事をしています。特に飲み物や新聞を頼まれることが多いです。

② 日本を選んだ一番の理由は、アジアの中で最も外国人にとって安全な国だと思っからです。私の姉も日本で大学生として暮らしています。看護の仕事はこれが初めてで、患者さんの支えになれることに魅力を感じています。例



習志野病院スタッフと一緒に鎌倉旅行

ミャンマーから日本へ 国境を越え看護師をサポート

日本で働く！ 看護補助者

〈千葉〉 習志野病院



3人が作ったお弁当。毎日持参する

習志野病院は常勤の看護補助者が22人働いています。そのうちの3人は3月から加わったミャンマー人のチッさん、イさん、ムさん。彼女たちが来日するまでの経緯や看護補助者としての仕事、これからの目標を聞きました。

(本部広報課 河内淳史・メディカル・リリーフ 富谷咲希)

〈質問事項〉

① 現在担当する業務

② 日本で看護補助者として働くことを決めたいきっかけ

③ 日本での暮らし

④ 今後の目標

たことが看護補助者を目指し始めたきっかけです。あと日本はKIPOPのコンサートが多いので(笑)。

③ 病院の寮に3人並ぶの部屋で生活しています。食事は毎日自炊。日本のカレーも作って写真を撮りブログに載せるのが楽しみの一つです。

④ 患者さんともっと上手にコミュニケーションをとれるようになりたいです。いずれは介護福祉士の資格を取り、習志野病院で働き続けたいです。



チッチッサンさん

① 私は5階病棟でベッドメイキングや洗濯などの仕事をしています。患者さんから「ミャンマーはどういう国ですか？」などと話しかけてもらえたときはうれしいです。

② 看護や高齢者の介護に興味があり、ミャンマーでは病院や孤児院でボランティアをしていました。日本は介護施設が多い印象があるので、自分の力を生かせるのではないかと思っ



音声認識技術を医療の場に 看護師向けアシストシステム開発



筆者

当院では、今年4月に始まった「医師の働き方改革」に先駆けて、2019年に医師のレポート作成業務の負担軽減を目的として音声認識ソフト「AmiVoice EX7」を導入しました。AmiVoiceは音声認識技術で音声テキスト化するソフトで、医師がレポートを作成する際に音声を使ってレポートを作成することができます。このAmiVoiceの導入をきっかけに、開発元である株式会社アドバンス・メディアとの関係が構築され、2021年、診療業務のさらなる改善を目指す共同開発プロジェクトを立ち上げました。当院の看護師4人、医療情報部職員4人（筆者含む）がプロジェクトメンバーとして新たなシステム開発に携わっています。

プロジェクトでは、まず外来業務、手術など院内のあらゆる業務の把握と課題抽出を行ない、その中から音声認識技術が活用できる業務をピックアップしました。調査の結果、看護師が医師の診療補助や患者ケアを行う一方で、記録業務や患者情報の収集に多くの時間を割いている現状があり、その点を改善していこうという方針を立てました。

試行錯誤を重ねて 実用的な内容に改良

現在開発中の看護師向けアシストシステムは、看護師がスマートフォン上のアプリを使って患者情報や検査結果などの必要な情報を音声で問い合わせると、端末上にその情報が表示されるというものです。

さらに、電子カルテに検査の日時や結果が登録されると、端末に通知が届く機能も備えています。

以前はナースコール対応等で専用パソコンが手元にない場合に、電子カルテの情報確認のためにナースステーションへ走って往復することもありました。しかし、このシステムによ

て院内のどこにいても迅速な情報取得が可能に。同時に、手術・検査のスケジュール管理や、新たに追加された検査情報の把握がしやすくなり、インシデントやアクシデントの発生防止につながることも期待されます。

また、看護師からの「検査結果を参照したい」「参照できる検査の種類を増やしてほしい」「音声認識の精度を上げてほしい」という声なども、今年度のバージョンアップで解消していきます。まだまだ課題はありますが、このシステムの導入で看護師の



プロジェクトメンバーは看護師4人と医療情報部職員4人で構成（写真はメンバーである筆者と看護師ら）

業務効率や患者ケアの質を向上させていければと思っています。システムの完成は来年3月を予定していますが、その後も過去

の業務データをもとに次の業務を予測して提案（アシスト）する機能や管理者向けの機能の追加を予定しています。

医療DXを取り入れて 時間外労働も抑制

「医師の働き方改革」に対応するため、医療現場でのデジタル技術の活用による業務効率化、すなわち医療DXの推進が重要視されています。

当院では共同開発プロジェクトの一環で、昨年1月から同社



開発中の看護師アシストシステムの画面。患者の検査状況が更新されると内容に応じて通知される

のソフトウェア「AmiVoice iNote」の導入評価を実施しています。これまで回診内容をI

で記録し、救急外来にいる医療秘書が電子カルテに入力して医師が最終確認をしていましたが、AmiVoice iNote導入後は診

療の音声から生成されたテキストデータが医療秘書に渡るため、入力作業の時間が軽減。月平均で医師は約180分、医療秘書は約120分の時間外労働を削減でき、医療チーム全体の業務効率化につながりました。

今後も、音声認識技術に限らず、例えば文書や記録の自動生成など生成AIを含む最新デジタル技術を活用し、医療現場のプロセス改善と新たな働き方の創造に努めます。



試験導入しているAmiVoice iNoteは病室の医師が診察内容を音声入力すると、その情報がすぐにテキストデータに変換される



開発中の看護師アシストシステムの画面。検査情報の画面（左）では検査の実施が決まると即座に情報が更新される。患者の個別情報の画面（右）では検査の予定やアレルギー、薬剤禁忌が表示される



アプリ動作確認の様子。実際に現場で働く看護師の声を聞き入れ、よりよいシステムの構築を目指す



炭谷理事長

刑務所で 介護福祉士実務者研修 全国から8人が受講

山口地域ケアセンター

6月12日、山口刑務所での介護福祉士実務者研修の開講式を開催しました。
当センターでは毎年山口刑務所に職員を派遣し、介護福祉士実務者研修を実施しています。出所後の円滑な生活再建に必須となる速やかな就労確保を支援するため、昨年度までに56人が研修を修了しています。

開講式では、山口刑務所の内藤所長と当センターの中村洋所長が全国刑事施設の応募者から選ばれた26〜68歳の8人の受講生を激励しました。

7月2日には炭谷茂理事長も講義を担当。社会保障制度の歴史等の説明と併せて、済生会の取り組みを紹介しました。受講者は「出所後の生活に不安を感じているが、手を差し



中村所長が挨拶

伸べていただいていることを知り、希望を持てる」などの感想を述べました。

(総合企画課 広報係主任

西川愛子)

イオン白山でラジオ体操 初の協働イベントに100人

〔石川〕金沢病院

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定実施しています。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1600事業を展開します。

7月3日、イオンモール白山3周年祭のオープニングセレモニーで、北陸ゆかりの音楽家によるガルガン・アンサンブルと協働し「一生動ける体をつくる！ 本場にすこい！ ラジオ体操！」と題したイベントを開催。イオンモールのお客さんや近隣の保育園児、セレモニーに出演していた地元アイドルグループなど約100人が参加。ラジオ体操1級指導士の資格を持つ、当院の笠谷重紀看護副部長が、動き一つひとつにアドバイスを送りながら、ラジオ体操第1・第2、みんなの体操を先導しました。ガルガン・アンサンブルの生演奏も好評で、心地よい汗を流す参加者は「健康への意識を高めるよい機会になった」と



話しました。

(経営企画調整室 五十嵐哲郎)

ソーシャルインクルージョン



救護所では本部に報告する人や負傷者を見守る係など各々が役割を果たした



午前の演習の反省を踏まえた午後の演習では各自が手際よく応急処置できた



負傷者役の教員は外傷を再現した特殊メイクをして訓練に参加

ができるよう合同で訓練を行なうもの。演習では5〜7人が一組となり、災害現場の負傷者のトリアージを確認後、応急手当をして救護所へ搬送する訓練を行ないました。
大腿骨折した想定では副木や三角巾を使って負傷した部位を固定、学生は負傷者役の教員に「痛いですよね。固定したら少し楽になるからがんばりましょうね」と励ましながら担架で救護所に運びました。救護所

でも負傷者の脈拍を測定したり、声をかけ続けるなど注意深く観察していました。

演習後はグループごとに応急処置や搬送方法を振り返りました。「負傷者に今何の処置をして、この後どうするか先のこと話して不安を和らげるよう心掛けた」と話す学生に教員は「負傷者にとつて耳から入る情報はとても重要。相手をよく観察して声をかけることは大切」と学生の行動を評価していました。

この日は学生同士の交流を深めるため、伝言ゲームなどのレクリエーションも実施されました。
西ブロック(滋賀・中津・野江・岡山の4校合同)は9月25日に兵庫県のアクリエひめじで開催予定です。
(本部広報課 河内淳史)



昼食は長期保存食のカレーライスなどをみんなで試食



研修の振り返りは学生が主体となって進行。教員がサポートした

学生服やランドセルのリユース 困っている人へとつなぐ

静岡済生会総合病院

地域包括ケア連携士の発案で、ソーシャルインクルージョンの推進とSDGsの取り組みとして昨年度から始めた「不要になった学生服の回収活動」。今年度は当院と特養小鹿などでしこ苑の2箇所での回収BOXを設置し、3月から5月末までの期間中、学生服や体操着、柔道着など合計217着ほどの寄付がありました。

また、6月8日の済生会フェアでは、経済的な理由などで入学時にランドセルの用意が難しい家庭等のための「リユースランドセルの譲渡会」を初めて実施。ランドセル回収に取り組んでいる学生服リユースショップ「さくらや」の協力の下、3件の譲渡が成立し、地域住民の温かい気持ちも届いている人に受け継ぐことができました。（企画・広報課 滝田恭子）



子どもたちの笑顔のために 家財道具の譲渡・運搬をお手伝い

大分県地域生活定着支援センター



今年度から、新たな地域貢献を開始しました。それは、大学を卒業した学生から実家に帰るなどで不要になった家財道具を寄付しても

らい、困窮する児童養護施設退所者や子育て世帯などに届けるというものです。大分大学（工藤修一研究室・元佐賀県済生会）が十数年前から毎年度行なっている活動で、当センターも協働運営することになりました。

4月30日、担当教諭が自宅に預かっていた洗濯機とこたつを日田市の児童家庭支援センター

「陽（ひなた）」に届け、その日のうちにある家庭に譲渡されました。約100キロの道のりでしたが、届いた洗濯機を見てはしゃぐ子どもたちの姿が浮かび、心が温まりました。

子どもたちの笑顔のために、来年度もお手伝いしようと考えています。

（相談員 圓道太一・杉尾美知果）

つながりから生まれる 明るい地域社会を目指して

大分県地域生活 定着支援センター

7月6日、「第74回社会を明るくする運動」日田地区推進大会が日田市で開催され、約160人の市民が参加しました。犯罪や非行をした人の立ち直りに寄り添い、犯罪や非行のない明るい社会を目指そうというのがこの運動の趣旨です。

今回、当センターは記念講演の講師として招かれ、御手洗和也センター長と筆者が生きづらさを抱える人々と地域社会とのつながりの大切さについてメッセージを届けました。

また、運営母体である日田病



院の公的病院としての役割、無料低額診療事業や福祉活動の展開を通じて、地域社会とのつながりを広げていることを紹介。

講演の最後に日田地区更生保

護女性会の方から「日田は済生会の活動で本当に恵まれている」との温かい言葉をいただき、大きな励みになりました。

（相談員 杉尾美知果）

〈東京〉中央病院

7月5日、トミンハイム古石場二丁目集会所で「第3回健康セミナー」をJKK東京と共催し、8人が参加しました。

今回は「小児科医によるおやこほけんしつゝ性の理解と子育てのヒント」と題し、小児科の吉田沙智恵医師が講演。「家族で参加できる性教育」「ワクチン接種の必要性について」「個別



相談会」の3部構成で、個別相談会では限られた時間の中、参加者の皆さんがそれぞれ抱える悩みを熱心に相談していました。

今後もJKK東京との連携による健康セミナーを通して、都内各地域で社会貢献活動を行います。

（済生記者 鈴木香純）



3年ぶりに再開 社会貢献活動の受け入れを

〈山形〉特養ながまち荘

6月20日、刑余者をはじめ保護観察所、保護司、更生保護女性会の更生保護関係者合わせて16人で車椅子清掃を行いました。

当施設では平成24年度から毎年保護観察対象者の社会貢献活動の受け入れを行なってきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い令和2年度から活動を休止。今回、3年ぶりの再開となりました。

社会貢献活動は保護観察中の人が地域社会に貢献する活動を行なうことを通じて、立ち直りを図ることを

目的としています。参加者は「人の役に立つと思うとうれしい」「福祉の仕事に関心が生まれた」などの感想を述べました。

（施設長 岩崎勝也）



JKK東京と健康セミナーを共催



1924 (大正13) 年6月創刊の「済生」が発行100年を迎えました。「済生」のあゆみを紹介します。

今回は1925 (大正14) 年の「済生」に掲載された巡回看護班の編成を紹介しました。

今回は1936 (昭和11) 年に寄稿された巡回看護婦と患者の物語をお伝えします。

(本部広報課 河内淳史・(株)白橋 西林美美)



【左】小石川白山御殿町 (現在の文京区) の路地裏 【上】白山御殿町での巡回班の活動

〇〇氏は同じ境遇に同情し、
「その娘さん(はなさん)をもらい受けたい。そうすれば2軒の家族8人が救われる」と話します。それを聞いたSさんとKさんは〇〇氏と母娘を仲介。結

れていました。

女神のような巡回看護婦

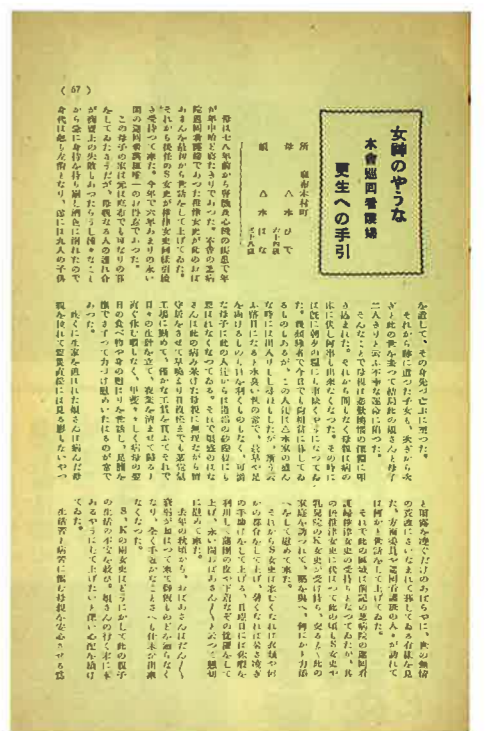
主人公は芝病院 (現東京・中央病院) の巡回看護婦Sさんと乳児院のKさんです。二人は東京市麻布木村町 (現在の六本



昭和12年頃の芝病院 (済生会五十年誌より)

木ヒルズ付近) に暮らす、ひでさん (64歳) の世話をしています。ひでさんは心臓や腎臓が悪く寝たきり。娘・はなさん (38歳) は電機工場で働き生計を立て、夜遅く帰宅しては病気の母の介護をする毎日です。

この母娘は麻布でも裕福な一家でしたが、ひでさんの夫は商売の失敗で酒におぼれその後、死亡。9人いた子どもも相次いで亡くなり、残されたのは母娘の2人だけ。親戚から見放され食事にも事欠くようになりました。



「済生」1936 (昭和11) 年1月号より

かし、次第にひでさんは食事をすることもできなくなりました。「石にかじりついてでも貧しい生活から母を救いたい」と必死で働くはなさんに何とか幸せになってもらいたい。SさんとKさんは神仏に祈る毎日でした。

娘・はなさんの結婚

ある日、Kさんが罹病率調査の対象家庭訪問の際、ある家庭でこの母娘の苦境を話します。



現在の六本木ヒルズとその周辺

(個人情報漏洩では?ということはこの際置いて...) すると、娘・はなさんに結婚話が持ち掛けられました。お相手は築地の魚河岸で働く〇〇氏 (原本も〇〇氏と記載)。5人の子どもがいますが奥さんに先立た



前列右から娘・はなさんと母・ひでさん。後列右からSさん、Kさん

し。さらには乳児院の事務職・井田さんという方も訪ねてきて記念撮影をしました (写真)。近所の人々は何が起ったのか、驚いていた様子が書かれています。記事を投稿したのは誰か、本誌には「一記者」とあるだけで詳細は不明ですが、筆者はSさんとKさんにインタビューしています。記者の問いに二人は「今年一番のうれしい出来事でした。家族8人は御聖徳の御余光で救われたのだと思います」と語っています。

彼女たちの支援は業務の域を

次号は東京・本所診療所の医師の随筆「蛙のはらわた」を紹介し

制度や役割を超えた支援

11月15日結婚式当日のSさんとKさんの様子を記事では次のように伝えています。二人は①はなさんの花嫁衣裳の準備②お祝い品の整理③母・ひでさんの清拭と着替え④自動車の手配 (恐らく送迎車のこと) で大忙

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
戸数																															
訪問																															
病者																															
小児																															
婦人																															
成人																															
合計																															

昭和11年11月の巡回看護月報。1カ月に東京市内 (現在の23区に相当) の約3,100戸を訪問していた

岡山済生会子どもメディカルラリー



小学生のときに第1回ラリーに参加、現在は岡山済生会看護専門学校に通う土岩ひまりさん（中央）。開会式で「人を助けることはとても素晴らしいことです。私はその“すごさ”をこのラリーで感じて看護師を目指すようになった」と話しました。



千田事務部長

稲葉医師

仁熊院長



小学生が救急現場での応急処置を学ぶ

急処置、災害時の避難など6つの課題に「チーター」と呼ばれるサポーター（医療従事者）と一緒に挑戦しました。

ケガの応急処置ではダンス教室でのレッスン中に鏡を巻き込んで転倒した想定で、傷病者に対応するかに競いました。この課題は腫脹した患部を冷凍飲料で冷やしたり、圧迫止血の技術が求められ、これらの技術が採点基準に基づいて評価されました。どの課題も限られた時間内で適切な対応が求められるため、子どもたちは集中して取り組んでいました。

参加者はトランシーバーの操作方法や腹腔鏡体験などにも挑みました。マクドナルドの「子ども110番の家」では、全国で行なわれている子どものための緊急避難場所の活動も学びました。

閉会式では上位3チームに表彰状と記念のメダルを授与。岡山済生会総合病院の仁熊健文院長は「今日、学んだことを友達に教え、人を助けることの“輪”を広げてほしい」と子どもたちにエールを送りました。

ディレクターで岡山済生会総合病院救急科の稲葉基高医師は、「子どもメディカルラリーは全国に広がりを見せている。（大阪）済生会千里病院とともに日本でのパイオニアとして、これからも子どもたちの笑顔と勇気のために続けていきたい。全国からの応援スタッフの参加をお待ちしています」と次回への意気込みを語っていました。

（岡山県済生会 済生記者 高畑貴子）



命を救うための
行動

一歩踏み出す
勇気を
大人が支える

岡山済生会総合病院

第8回岡山済生会子どもメディカルラリーが6月29日に岡山済生会総合病院と隣接するライフケアセンターで開かれ、岡山県内の小学5・6年生33人が参加しました。

このラリーは友だちがケガをしたり、倒れている人を見つけたときに自分の身を守りつつ、何ができるか自分で考え、助けを呼び、適切な手当てができるようになることを目的とした競技会です。災害や緊急時に必要な知識と技術を学ぶ場として今年で8回目。済生会の病院職員と看護学生、外部のボランティアスタッフを含む144人が運営に携わりました。

参加者は3人一組となり、午前は心肺蘇生法やAEDの操作方法等の講義を受け演習をしました。災害時など実際の場面でのように行動すべきかを具体的に学ぶ貴重な機会となりました。

午後はチームごとに心肺蘇生、ケガの応



たにうち・くみ 1989年、富山県生まれ。2012年から本格的に女優活動を開始。その半年後、映画『グレイтフルデッド』の主演を射止める（公開は2014年）。2019年、映画『火口のふたり』で柄本佑とW主演を務め、第93回キネマ旬報主演女優賞を受賞。その後も映画、ドラマ、舞台、CMと幅広く活躍。現在放送中のNHK大河ドラマ「光る君へ」では、藤原道長の妻・明子を演じている。

演じるのは「蝶のように舞い、蝶のように生きる女性」 自由に、軽やかに、心に残る言葉を届けたい

今秋、出演する舞台『夫婦パラダイス』で、蝶を体現するような女性を演じる瀧内公美さん。「蝶には優雅なイメージがありますよね。ゆらゆらした曲線的な動きが気になってつい目で追ってしまう。そんな存在感を舞台上で出せたらいいなと思います」と語る。

一体となって作品がつくられていくこと。役者が芝居をするだけでは完成せず、受け手の生の反応によってその世界観は変わる。「だからこそ言葉を大切に、劇場空間の隅々にまでエネルギーを届けることを心がけています。軽妙な掛け合いとともに、人が生きる上で心が楽になる言葉がちりばめられている本

作を、ぜひ劇場で味わっていただきたいですね」

ただし、観てくれる人がいないと表現者にはなれない。

「私はこれまで仕事が多かった時期が長かった。その分、今、毎日のようにお芝居ができるありがたさ、いろいろな人との出合いの尊さをひしひしと感じています。それもミニシアターに多くのお客さまが足を運んでくださり、出演した作品をご支援してくださったおかげです。一つ一つ考え抜いた末のパフォーマンスをお客さまに見ていただくことが次の作品につながると思っていて、これからも演じることに執着する俳優であり続けたいと思います」



シス・カンパニー公演 日本文学シアター Vol.7

【織田作之助】『夫婦パラダイス～街の灯はそこに～』

川の向こうは「パラダイス」、でも、こちら側は人生の吹き溜まり。そんな川辺のスナックにワケアリのカッパル柳吉と蝶子が流れ着く。スナックの2階に転がり込んだ2人だったが、この店にもなにやらワケアリの雰囲気……織田作之助の人気作『夫婦善哉』を入りに、夢か現か幻か、予測不能な劇空間が広がる。

■作：北村想 ■演出：寺十吾

■出演：尾上松也、瀧内公美、鈴木浩介、福地桃子、高田聖子、段田安則

東京公演：2024年9月 6日（金）～19日（木）紀伊國屋ホール

愛知公演：2024年9月22日（日祝）～23日（月休）穂の国とよはし芸術劇場 PLAT主ホール

大阪公演：2024年9月26日（木）～27日（金）森ノ宮ピロティホール

瀧内公美



単館映画作品でスキルと経験を培い、

苦勞の末にTVドラマの世界へ。

今ではクセのある役から正統派のヒロインまで、

幅広い演技で多くの視線を釘付けにする

俳優の一人に。

華麗な変身ぶりは一生のなかで

いく度も変容を遂げる蝶のよう。

そんな瀧内公美さんに、次の舞台で演じる

「お蝶」との向き合い方について

聞きました。

Kumi Takinouchi

Text：みやじまなおみ

Photos：安友康博

Styling：Kohei Oishi

Hair & Make-up：Dong Bing Tou



Vol. 171

口福につぼん

吉井省一

奈良地方には古くからわさびの葉にご飯を包んで食べる食文化がありました。こちらの手鞠寿司の中にもわさびの葉や茎を使用しているものが多数あります。使っているお米は、コシヒカリやひとめぼれのルーツと言われている「岡山あさひ」。粒が大きく、ほど良い甘さ



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

かわいくて美しい奈良のわさび葉寿司

ご紹介するのは、鯖、ずわいがに、鮭、海老、鰻などを使って丁寧に仕上げた10種類のキュートな手鞠寿司。



食べてしまうのが惜しくなるほど、かわいらしい手鞠寿司。彩りも鮮やかなので、ちょっとした集まりも華やかに盛り上げてくれそう

83 手鞠わさび葉寿司 《うめもり》

奈良県奈良市

と粘りがあり、冷めても美味しいので、寿しのシャリにはぴったりです。

シャリを通じてネタの旨みを引き出すお酢は、紀州和歌山の梅酢を加えたオリジナルのもの。

そして、このこだわりたっぷりのお寿司をできたての味でおうちで楽しめるように、最新の瞬間冷凍技術で仕上げられています。90日間も冷凍保存できるので、食べ

たい時に食べたい分だけ解凍できるのもうれしいですね。「うめもり」には、季節に合わせた限定メニューもありますが、今回は日本ギフト大賞ふるさとギフト最高賞、ジャパンフードセレクショングランプリの2冠を受賞した「あでやか手鞠わさび葉寿司」を選びました。



急速冷凍で食材の中の氷の粒を小さくして食材の細胞破壊を防ぐ冷凍技術を採用。旨み・風味・色味を損なわず、できたての美味しさをおうちで楽しめる

瞬間冷凍技術によりできたてをおうちで

それではさっそく、いただきたいみましょう。まずは、「わさび葉寿司」から。食べやすい大きさにわさびの葉で丸く包んだ酢めしに薄い玉子焼きを挟みながら、「鮭」「鯖」「海老」「鰻」がのっています。口に入れた瞬間、とろけるような鮭、脂がの



季節限定の手鞠寿司も充実。大根を使って椿の花を模した手技などに目を奪われる



【外円の11個、内円の4個の順に上から時計回りに】①⑥わさび巻 ②⑦古代巻 ③古代あなら寿し ④⑩柚子紅ずわいがに棒寿司 ⑤⑪梅酢炙り鯖棒寿司 ⑧わさび葉寿司海老 ⑨⑭鮭いくら錦糸巻 ⑫わさび葉寿司鯖 ⑬わさび葉寿司鮭 ⑮わさび葉寿司鰻

さにほっとする一品。

玉子焼きで巻いた酢めしに鮭といくらの親子コンビをのせた「鮭いくら錦糸巻」は、上品でさっぱりした味わいが格別。

爽やかな梅酢でしめたぶ厚い鯖を軽く炙った「梅酢炙り鯖」は、炙り加減も梅酢の加減も言うことなし。

最後に「柚子紅ズワイ蟹押しずし」。蟹の身と柚子がこんなに相性がいいなんて。私はこれ

がけっこうお気に入りでした。

初めは、冷凍寿しにやや懐疑的でしたが、これはまるで職人さんが目の前で仕上げてくれたような美味しさ。まだまだ暑さが続きそうですが、クーラーがきいた涼しい部屋で、じっくり堪能してほしい、まほろばの国奈良の逸品でした。



あでやか手鞠わさび葉寿司 15個入り
4,700円(税込・送料別)
消費期限……製造日より冷凍90日間

お取り寄せ・お問い合わせは
梅守本店(うめもり)

〒630-8001 奈良県奈良市法華寺町221
TEL:0120-015-098 FAX:0120-016-098
ホームページ: <https://www.shop.umemori.co.jp/>

よいし・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。



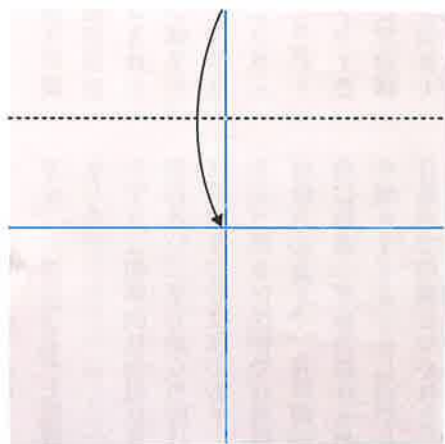
わくわくおでかけ ドライブ♡カー



--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

車体

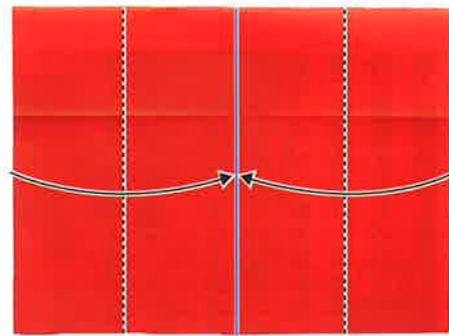
1 折り目を付けて、中心に折る



2 裏返す



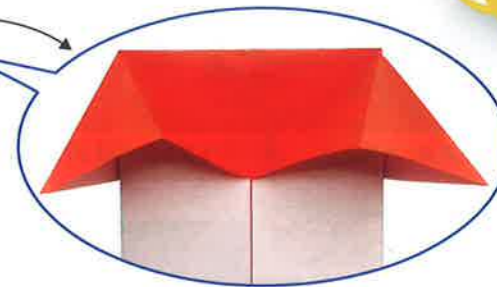
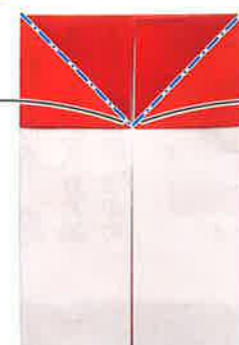
3 左右を中心に折る



4 点線で折り目を付けて戻す



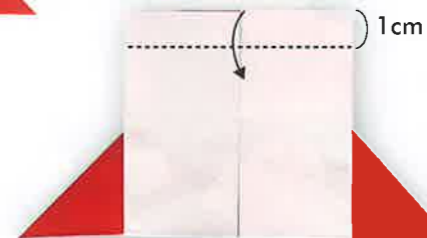
5 図のように三角を折りつぶす



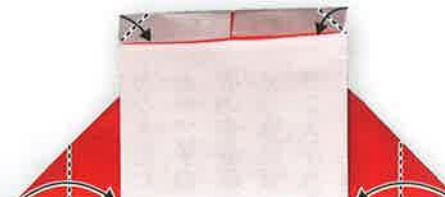
6 点線で折り、のりでとめる



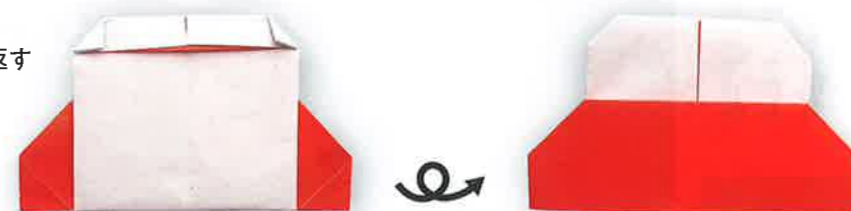
7 上1cmを折る



8 図のように点線で折る



9 裏返す



組み方



タイヤの付け方を変えて、
いろいろなアレンジで
楽しんでね♡

【いまみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えていきます。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



2人、看護師7人、事務部2人の活動の一つです。
 この日は「外国人患者さんがせん妄になった」というシチュエーションを協力者のイギリス人留学生に演じてもらい、看護師がポケットーク（AI翻訳機）を用いて対応。相手にうまく伝わらない場面もあり、普段からポケットーク操作に慣れておくことが重要だと改めて実感しました。

また、混乱している相手に威圧感を与えず、シンプルかつ効果的に伝えるには「Please」や



「Don't worry」等の声かけが有効だと意見交換を通して知ることができ、有意義な時間となりました。

（済生記者 二階堂潤江）

（大分）日田病院

**業務負担軽減を目指して
タスクシフト・シェア**

働き方改革に関連した法改正で2021年10月から臨床検査技師の業務範囲が拡大され、検体採取や生理学的検査に関する行為など10項目が追加されました。これを受けて当院臨床検査

（愛媛）松山老健にきたつ苑
**紙からタブレットへ
進む介護現場のICT化**

厚労省が推進する介護現場のICT化に取り組むため、当苑訪問介護事業所では3月にタブレットを27台導入しました。これまで紙に記載していた訪問介護記録が、訪問先でのタブレット入力に変わったことで、事業所のパソコンで入力内容を即座に確認できるように。写真

査部ではタスクシフト・シェアを行なうことにしました。
 タスクシフト・シェアとは、これまである職種が担っていた業務を他の職種へ移管・分担することで、静脈路確保と造影剤投与の業務を今年度の実施目標としました。

例えば生理検査室での造影剤コー検査の際に、臨床検査技師が静脈路確保と造影剤の投与を行なうことで看護師の負担軽減につながるのではないかと期待しています。

新規の業務となるため、しっかりと練習し安心・安全な検査となるように努めます。

（臨床検査部 西村悠希子）



も添付できるため利用者さんの創傷や患部の経過なども把握しやすく、多職種への情報共有も正確に素早くできるようにになりました。

導入当初は登録ヘルパーの大半がタブレット初体験。「使いこなせるか不安」という声が多かったのですが、数回の研修の実施とともにいつでも相談できる体制を整備したことで、今では皆さん上手に使いこなしています。今後は給与計算もタブレット入力に変更する予定です。

（訪問介護 柳田美樹）



（和歌山）特養潮光園で受け入れた3人の留学生。
 うち2人は介護福祉士の資格を取得し同施設で働いている

topics

外国人の採用を見据えて 第2期留学生受け入れ

（和歌山）特養潮光園

令和3年度に当園で初めて受け入れた2人の留学生、エーミヤツエインさんとバンデイアンジャナさんは2年を経て介護福祉士の資格を取得。4月から当園で働いてい



ガルアンピカさんを受け入れました。

平日は和歌山社会福祉専門学校に通い、夕方から当園にアルバイトとして勤務するアンピカさん。明るい性格で日本語の会話能力も高く、「2年間一生懸命に勉強して介護福祉士の資格を取りますよ」としっかりと日本語で約束してくれました。

伊藤秀一支部長は「介護人材不足の状況を踏まえ、外国人の採用を続けたい。そのためにも受け入れ手続きのノウハウを蓄積しないとイケない」と思いを述べました。

（済生記者 山崎良彦）

せん妄の外国人患者さん どう対応する？

（大阪）千里病院

6月28日、当院会議室で異文化交流会が行なわれました。同会は、外国人観光客が安心・安全に医療を受けられる体制を院内に整備するため設立された当院の国際診療支援チーム（医師

★ほにかんだ笑顔が優しさと思いやりのある性格を感じます。がんばれーアンピカさん！

（本部広報課 河内淳史）

「富山」なでしこ保育園
プロバスケット選手が
やって来た!



7月9日、当園の遊戯室でプロバスケットボールチーム「富山グラウジーズ」の選手とアカデミーコーチによる「プロ直伝! とやま夢づくりスポーツ塾」が開催された!

塾」が開かれ、年長児27人が参加しました。これは富山県の「プロスポーツチームによるキャリア教育推進事業」の一環、プロ選手の直接指導や人間性に触れることで、子どもたちに大きな夢を抱いてもらうことや、プロスポーツチームとして地域の活性化を図ることを目的としています。子どもたち

「福島」川俣病院
チャリティーを通じて
地域医療の充実を



福島法人会川俣支部のチャリティーゴルフ大会が、5月26日に安達太良カントリークラブで開催されました。今年で4回目

は、来園した米山ジャバ偉生選手を「ジャビー!」と呼んで全カジャンケンやボール取りなどで一緒に対戦。一生懸命ドリブルに挑戦するなど、楽しい時間を過ごしました。
(主幹保育教諭 堀田理恵)

となる本大会は、地域の有志が集まり、ゴルフを通して寄付を募るイベントです。
当日は快晴で、絶好のゴルフ日和。総勢64人(当院から3人)が参加し、親睦を深めつつ真剣勝負で盛り上がりました。
翌27日、法人会を代表して2人が来院し、寄付金をいただきました。参加者の思いはチャリティーゴルフを通じて、地域医療を担う当院へ確かに届けられました。
(総務人事課 佐藤 怜)

「大阪」野江病院
初めての市民公開講座
楽しく認知症予防を学ぶ

当院初の市民公開講座「認知症の理解と治療」を、6月21日に城東区医師会と城東区保健福祉センターとの共催で実施しました。
会場の城東区民センターには178人が来場。第一部は高田淳城東区医師会長が座長を務め、当院脳神経内科の河野隆一副院長が「アルツハイマー型認知症の予防と治療」と題して講演。第二部は城東区保健福祉センターの保健師が「しやしや

き百歳体操」を実演、城東区ゆうゆうオレんジチームの取り組み紹介がありました。
参加者はメモを取り熱心に講座に耳を傾け、しやしやし百歳体操では「足踏みしながら野菜の名前を言う」など頭と体を同時に使った動作を行ない、楽しそうに認知症予防を学んでいました。
(副事務部長 岡野周一郎)

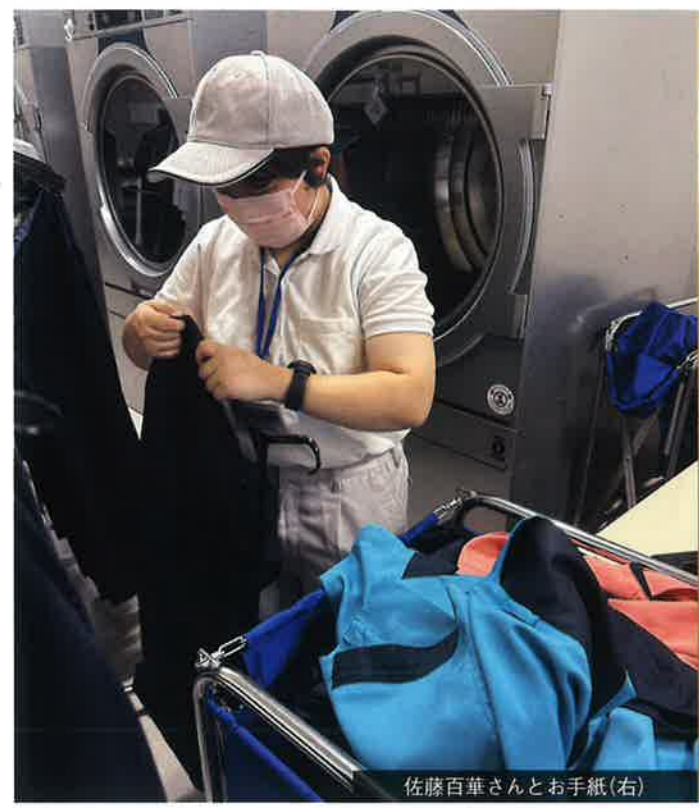
※施設から「利用者さんに読んでほしい」という希望があり振り仮名をつけました。



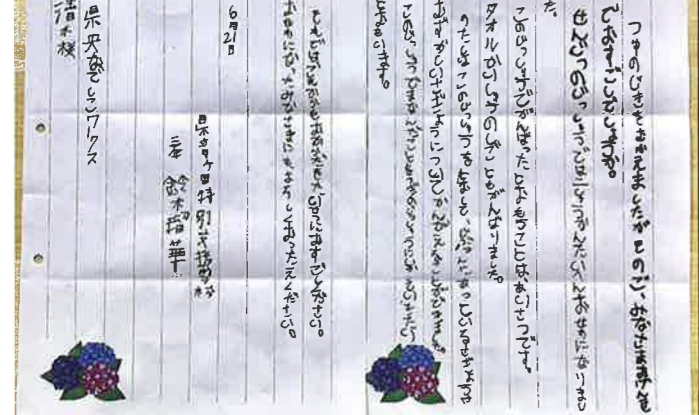
鈴木瑠華さんとお礼状(左)

業務所です。開所から間もない6月の1カ月間、初の実習生として県立月ヶ岡特別支援学校3年生の鈴木瑠華さんと佐藤百華さんを受け入れました。
2人には当事業所の主要業務であるクリーニングを中心に、駐車場管理作業なども体験してもらいました。吸収が早く、実習を終える頃には周りの利用者さんと同じ速さで作業できるまでに成長しました。
また、新潟県中央基幹病院での納品・回収作業の際は、すれ違う職員や業者の皆さんにとっても元気な声であいさつをするなど、職員や利用者さんも彼女たちから学ぶことの多い1カ月間となりました。
(済生記者 寺山直希)

チームなどを行ない利用者さんとの交流しました。その初々しい姿に、利用者さんも優しく見守っている様子。実習の最後には別れを惜しみ、「ありがとう! またここに働きたいね!」と声をかけていました。
今回の実習は若い2人にとって、とても実りの多い時間となったようです。卒業後、一緒に働けることを心待ちにしています。
(済生記者 濱本佳代)



佐藤百華さんとお手紙(右)



「愛媛」今治老健希望の園
実習生の初々しい姿に
利用者さんも笑顔に

6月10日から7月5日まで、河原学園の学生2人が当園に実習にやってきました。2人は合同就職説明会に参加した際に、当施設に興味を持ったそうです。実習生は少し緊張しながらも、介護体験や体操、散歩、ゲ





和歌山病院

23対27!
激闘の末惜敗

第43回済生会近畿ブロック親善ソフトボール大会（和歌山予



選）が5月18日、つつじが丘中央公園で行なわれました。対戦相手は有田病院。ここ数年近畿ブロック大会に連続出場を続けている同院ですが、両チームの実力はほぼ五角です。序盤は両チームとも打線がつかないで、当院が1イニングで12得点を奪い有利に試合を進めるも、粘る有田病院に6回裏に逆転されてしまいます。互いに譲らない乱打戦の末、7回表に4点差に追いつく粘りを見せた当院でしたが、その裏に有田病院4番・小早川知貴選手の手サヨナラ満塁ホームランが飛び出し、23対27でゲームセット。当院の予選敗退、有田病院の近畿ブロック大会出場が決まりました。

（済生記者 松元靖寿）

親善ソフトボール大会
Bパート優勝ならず

〈福岡〉二日市病院

福岡市雁の巣で6月16日に行なわれた第46回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会に出場しました。当院チームは、昨年Bパートの決勝戦で敗れ

Aパート進出を逃したため、今年はBパート優勝を目標に掲げました。しかし、第1試合の対福岡総合病院戦は打線がつかず、守備のミス等もあり3対1で敗北。第2試合の対長崎病院戦は、3ランホームランが出るなど打線が好調でしたが、接戦の末に8対7で惜しくも敗れてしまいました。結果的に目標達成ならず。それでも、気温30度を超える炎天下、精いっぱいプレーした選手たちには拍手を送りたいと思います。そして、来年こそはBパート優勝を果たします!!

（済生記者 久富大史）

近畿地区優勝
9年ぶりに全国へ

〈奈良〉中和病院

メント方式で戦いました。6月9日の初戦は和歌山チームと対戦し11対2で勝ち進んだものの、雨により2回戦は7月14日に延期に。日程が空きましたが、愛

第46回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会



知チームとの準決勝を2対0で勝ち抜き、決勝戦は5対2で大阪チームに勝利。頂点に立ちました。

チームを率いた西口幸孝監督は「選手皆が優勝に向けて成果を発揮することができました。次は9年ぶりの全国大会。チーム一丸となり全国大会初優勝を目指して頑張ります」と意気込みを語りました。

（済生記者 米井 悠）

福岡総合病院

① 昨年の雪辱を
果たすも……

6月16日、第46回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会が開催され、12チームがA・Bの2パートに分かれ熱戦を繰り広げました。

当院は初戦で昨年惨敗を喫した二日市病院と対戦。最後まで投げ抜いた大田尾雅也看護課長と今年から加入した新戦力の活躍で、3対1と見事勝利。昨年の雪辱を果たしました。第2戦の相手はBパート優勝を狙う唐津病院。先攻の当院が初回に2点をもぎ取り、2勝目も……とワクワクしたのも束の間。そ



の後、火が着いた唐津の猛攻に反撃できず予選敗退となりました。

残念な結果ではありませんでしたが、チーム一丸となり2試合とも良い試合ができました。

（総務課 橋本祐介）

〈三重〉松阪総合病院

② 大会連覇ならず
3位決定戦も
サヨナラに散る

第43回済生会近畿ブロック親善ソフトボール大会が、天候不良もあって6月9日、7月14日の2日間という変則的な日程で、大阪府のいきいきパークみさき



で開催されました。大会連覇に挑んだ当院でしたが、初戦は京都府チームに12対0で快勝するも、準決勝で大阪府チームに5対8と惜敗。決勝戦も愛知県チームにサヨナラホームランを喫し、2対3で敗れました。

（医事課 政木拓真）

講しました。
 コロナの影響で数年ぶりの開催となった本ワークショップでは、インストラクターとしての知識・技術向上を図るとともに、時間管理や成人教育におけるフイードバックの仕方などについても学びます。これがなかなか簡単ではなく、人に伝えることの難しさを痛感しました。



〔群馬〕前橋病院
**ICLS指導者養成WSを
 理学療法士として受講**

日本救急医学会認定「群馬ICLS（蘇生トレーニング）指導者養成ワークショップ」が6月16日、前橋赤十字病院で開催され、理学療法士の筆者も受



〔福岡〕特養むさし苑
**BCPPに対する
 一人ひとりの
 意識・認識を高める**
 「BCP研修会」と「非常食の作り方&試食会」を7月1日に実施し、30人以上の職員が参加しました。
 まずは、災害対策委員会のリーダーを務める中尾大輔さんが、

当日は医師、看護師、救急救命士など17人が受講。理学療法士が蘇生チームの一員として活動することは多くないかもしれませんが、多職種の人と協力しながら学習する貴重な経験を積むことができました。
 （リハビリテーション室
 理学療法士 須賀正伸）

〔静岡〕特養小鹿なでしこ苑
休日のレクリエーション
 6月23日、1階フロアの入居者さん12人を集めてレクリエーションを行いました。
 2人1組で、1人が箱を振って卵に見立てたピンポン球を出し、もう1人が出てきたオレンジ色のピンポン球を卵のバックに詰めます。より早く球を10個詰め、バックに輪ゴムをすることができたチームの勝ちとなり

筆者を含め新人職員にも分かるようにBCPや当施設周辺の環境についてハザードマップを示しながら説明。水害が起きた場合の危険箇所や、地震による筑紫野市被害想定などを解説しました。
 その後、栄養管理士の園田百合主任が非常食の説明と作り方をレクチャーし、実際に参加者自身でカレーを作って試食。「思っていたよりもおいしい！」という声が上がりました。
 自分たちが置かれている環境を知ることの大切さや、BCP研修を繰り返して行なう意義を再認識した一日になりました。
 （済生記者 岸川涼二）

制限時間は1分。皆さん必死に箱を振り、ピンポン球を詰めていきました。勝負事となると負けん気が出て普段見られない表情をした入居者さんもありました。
 （済生記者 石田遼祐）



〔鹿児島〕川内病院
**ホームラン賞選出も
 Aチーム昇格ならず**

第46回済生会九州親善ソフトボール大会が6月16日に行なわ



れました。当院は前回の大会で2連勝するも引きで敗退に。今年は新たな経験者も加わり、大会まで練習に励んできました。数年ぶりに開催された懇親会でも渾身の紹介動画を披露し、大変盛り上がりました。

（総務課 富永晃平）
 気合を入れて挑んだ第1試合は、相手チームの猛攻に押され惜しくも敗退。気持ちを切り替えて臨んだ第2試合は、いきいきとしたプレーで勝利を収めました。結果、今年もBチーム残留となりました。来年もBチーム昇格を目指します！

長崎病院
**激闘！親善ソフト大会
 Aパート昇格持ち越しに**

6月16日、雁の巣レクリエーションセンターで開催された第46回済生会九州ブロック親善ソフトボール大会に



出場しました。選手の高齢化が進む中、今年は若手の補強に力を入れ、女性ピッチャーも入部。院長の衛藤正雄総監督、副院長の芦澤潔人監督をはじめ選手22人でAパート昇格を目指し、練習を重ねてきました。
 Bパート初戦の対唐津病院戦は、激闘の末4対5で敗れてしまいました。2回戦の対二日市病院戦はチーム力を発揮し、8対7で見事サヨナラ勝ち！
 決勝トーナメントには進めません

病院機能拡充へ 付属棟が堂々完成

〔茨城〕龍ヶ崎済生会病院

館の南北に増築。正面玄関のある南棟には入退院支援室や売店、

当院付属棟の竣工式と内覧会を6月16日に行ない、式典には13人、その後の内覧会には約70人が参加しました。

付属棟は病院機能の拡充を目的としており、病院本

外来化学療法室、会議室、北棟には新興感染症に対応した診察室や鎮静剤を用いた検査・処置後等に使用するリカバリー室、臨床研修医室や図書室などを設置しました。

付属棟竣工にあたり、海老原次男院長は「医療環境や疾病の変化に伴い不足してきた病院機能を拡充でき、大変うれしく思います。これまで以上に地域医療に貢献できるよう職員一丸となつて尽力していきたい」と抱負を語りました。

〔済生記者 堀越琴美〕

〈奈良〉老健シルバーケア まほろば

オレンジ色の花で 街中いっぱいにならう

6月8日、桜井市から「オレンジガーデンングプロジェクト」用のマリーゴールドの花苗とプランター、培養土が届きました。

全国各地で行なわれているこのプロジェクトは、9月の世界アルツハイマー月間に向け、認知症啓発のテーマカラーのオレンジ色の花で街中をいっぱいにならうというもの。これを機に



当施設玄関前の花壇も整備し、オレンジの花を植えようと職員有志8人が中心となり、利用者さん約20人にも種まきや花苗の植栽を手伝ってもらうことになりました。

新潟病院

新キャラクター第2弾は 副院長がモチーフ

当院では、経営管理層をモチーフにしたキャラクターを作成し、新潟病院の魅力を伝えられるような広報に取り組みんでいます。

マリーゴールドが咲き続けるよう水やり、花がら摘みを頑張っているところです。9月にはオレンジ色の花でいっぱいの写真掲載したいと思います。

〔済生記者 林 嘉夏〕

3月に発表した院長「てらすくん」、看護部長「しいちゃん」、事務部長「たけくん」に続き、5月には3人の副院長をモチーフにした新キャラクター「しおちゃん」「まさきくん」「つぼちゃん」を作成しました。

親しみを持ってもらえるよう、キャラクターごとに性格付



てらすくん
院長。
専門は「腸(Guts)」
診療が大好き♡
院長のお勤めは
ガッツで乗り切っている。



4年ぶりの大規模災害訓練

6月8日、4年ぶりに大規模な災害訓練(ブライント型)を院内で実施し、総勢150人が参加しました。

「群馬県南部を震源とする震度6強の直下型地震が発生し、近隣地域でも多数傷病者が発生」との想定。はじめに、年始に発

〔群馬〕前橋病院

けし、1コマ漫画風の紹介イラストも作成。今後、当院X(旧Twitter)で配信していきます。ぜひ「フォロー」、「いいね!」をしてください。

〔総務課 吉川未織〕

生した能登半島地震に出勤したDMATの報告があり、その後、災害対策本部長の傷病者受入宣言で訓練開始。各エリアでチームビルディングを行ない、次々と運び込まれる傷病者に対してトリアージ、処置、検査などを実施しました。

傷病者役は新入職員を中心に配置。ムラージュ(傷をリアルに再現した特殊メイク)と俳優さながらの演技で緊迫感を出しました。

群馬県もいつ大きな災害が発生するかわかりません。これからも災害拠点病院としてのさらなる機能強化を図ります。

〔管財課長 島田泰治〕

〈埼玉〉川口乳児院

プール開きで大はしゃぎ

7月6日、梅雨の晴れ間の青空のもと、15人の乳児が参加して院内プールのプール開きを行ないました。

保育者が事前に準備した水着に着替えた子どもたち。あちこちから「か



わい!」という声がかかる中、はじめに神主さんに扮した保育者が大ぬさ(お祓いに使う道具)を振り、水遊びの安全を願うと、皆興味津々で注目していました。

大喜びで水遊びを始める子や、顔に水がかかって少し困り顔の子、プールには入らずに水をすくって遊ぶ子など、さまざまな様子が見られました。

〔済生記者 大貫典子〕



アビリンピック熊本で好成績
全国大会出場へ

〈熊本〉 済生会かがやき

6月23日に開催された「熊本県障がい者技能競技大会」(アビリンピック熊本大会)に、当施設のクリーンTeamから利用者さん4人(男性3人・女性1人)がビルクリーニングA競技に出場しました。

済生会グループの福利厚生制度を職員により深く知ってもらうため、7月11日、人事課が主体となり福利厚生制度説明会を開催。職員30人が参加しました。リロクラブ、第一生命、東京海上日動、日本カーソリユーシヨンス各社の協力を得て設置された各ブースで福利厚生制度を詳しく説明。参加者は疑問に思ったことを積極的に質問しており、制度の活用を真剣に検討していることが伝わってきました。参加者は「制度や福利厚生ア



初参加の女性利用者さんは「少し緊張しましたが、最後まで取り組めてよかったです」とコメント。皆さん、仕事終わりの少ない時間での練習でしたが、金賞1人・銅賞1人という見事な成果を残すことができました。金賞に輝いた男性利用者さんは熊本県代表選手として、11月に愛知県で開催される第44回全国アビリンピックに出場します。(クリーンTeam 支援員 永野勇太)

静岡済生会総合病院
職員が楽しく働けるように
福利厚生制度説明会



度の新規入職者は、医師・臨床検査技師・看護師・看護補助者など34人。

研修では、病院理念をテーマにグループワークを行ないました。多職種連携・地域とのつながりを重視し研修自体を職種の壁をなくして行なったことで、良い意見交換につながったと考えます。参加者一人ひとりの発表に、済生会の組織人としての自覚が現れていました。

最終日は地域の多目的施設(サンフレッシュ山口)でリフレッシュ。レクリエーションではソフトバレー、じゃんけん電車、絵描き伝言ゲームを行ない、大いに盛り上がりました。(副看護部長 萬野知代子)

岡山済生会総合病院
病院マーケティングの書籍
AIを活用してセルフ出版

5月18日、当院の広報戦略委員会およびDX委員会の委員長である川井治之特任副院長が、電子書籍「新時代の病院マーケティング」を出版しました(ペーパーバック版もあり)。本書はChatGPTを活用し、実例の内容をGoogle Bardや

プリの機能を知ることができ、利用の幅が広がった」「済生会グループならではの福利厚生制度の手厚さを説明から感じるこ

滋賀県病院

「つよい絆で
やさしい看護」を

看護週間にちなみ、5月13日から31日まで院内で「つよい絆でやさしい看護」をテーマにイベントを開催しました。



「看護」のメッセージとしてポスター展示。「笑顔で」寄り添う看護「人のつながりを大事に」など、信頼と安心の看護を届けたいという思いがたくさん寄せられました。また、イベント期間中の7日

とができ、もっと利用してみようと思った」などの感想を述べました。(広報課 高林響子)

間、認定看護師が日替わりで認知症予防、嚥下、感染症予防などをテーマにミニ講座を実施。合計65人が参加し、「日常的に役立つ」「分かりやすくよかった」など多くの感想をいただきました。(外来 看護係長 寸田 佳)

山口総合病院

多職種の新人34人で
合同研修

4月1〜3日、新採用職員の間、合同研修を実施しました。今年



Conioで1年をかけて事実確認した上で書かれています。

新規患者の獲得、既存患者の再診促進、かかりつけ医からの紹介増加といった課題、それらへの対策などについて掲載。内部マーケティングの重要性、デジタルマーケティングやAIの活用など、現代の病院が直面するマーケティングの最新動向にも触れています。さらに、付録ではマーケティングの基本フレームワークや用語を解説しており、基礎資料としても活用できます。(済生記者 高畑貴子)

山口 豊浦病院

Instagram始めました

7月1日の開院記念日に合わせ、Instagram公式アカウントを開設しました。これまで当院のSNSはフェイスブックのみで、フォローワ



まな情報をタイムリーに発信していきます。ぜひフォロー。いいね！をお願いします。(済生記者 西田千鶴)



おむつ講習で地域交流
 6月24日、地元自治会主催の「おむつ講習会」が地区公民館で行なわれ、約30人が参加しました。
 昨年10月、地元自治会との交流を目的に大王製紙の協力を得て開催した「正しいオムツの選び方・付け方講習会」が大変好

ました。デイルームの笹に患者さん自身で飾りと短冊をつけ、仕上げは記念写真撮影で「はいチーズ!」。終始笑顔で過ごすことができました。
 (5階東病棟 看護師長 松岡一子)

〈和歌山〉特養潮光園



9分野・11人の認定看護師が活動中の当院では、その強みを

11人の認定看護師が各専門分野を説明

〈大阪〉野江病院

生かすべく、6月11日に1階フロアと4階大会議室で市民講座を開催しました。

1階には脳卒中や認知症予防に関する健康相談ブースとAED・心臓マッサージの体験ブースを、4階には正しい手洗いと紫外線対策の体験・相談ブース、乳がん患者用下着やウィッグの試着体験・相談ブースを設置。10〜80代の幅広い年齢層の27人が参加しました。

終了後、「有意義な時間をありがとうございました」とも役に立ち、普段の生活を見返してみる機会となった「各ブースで看護師さんの説明を聞いてよかった」など、たくさん感想をいただきました。

(がん相談支援センター 副看護師長 渡邊美貴)

病院に特化した防火訓練

〈福岡〉二日市病院

6月5日、筑紫野太宰府消防本部が開催した「事業形態特化型防火訓練(病院編)」に当院から看護師2人、事務職員3人が参加しました。

今回の講習会でも大王製紙のスタッフが分かりやすく説明し、参加者は「横向きに寝た場合はどうなりますか」などの質問をしました。
 浦崎弘之施設長は「ごく身近なおむつをきっかけにスタートした地域交流。再度開催の手助けを依頼されたことはうれしい限りで、これからも地元と共に学び交流の輪を広げていきたい」と思いを述べました。

(済生記者 山崎長彦)

新クリーニング工場の拡張工事が始まる

〈熊本〉済生会ウイズ

当施設は昨年度から、新食品作業棟と新クリーニング工場建設に向けて工事を進めてきました。

今年5月には新食品作業棟が完成。新しい作業環境の中、利用者さんは野菜の皮むき作業等に励んでいます。
 7月からは、食品作業場跡地を利用したクリーニング工場の

が参加しました。

初めに行なわれた座学では、病院での過去の火災事例や病院に設置している消防用設備等について学びました。その後の実技では消火栓の使い方や煙中体験、はしご車搭乗、避難器具の取り扱い(緩降機での降下)を体験。最後に、病院の火災を想定した総合訓練を行ないました。今回の訓練で学んだことを生かし、火災を起こさない環境づくりとともに、火災が起きても患者さん・職員が安全に避難できるような病院全体で防災意識を高めていきます。

(経営戦略課 都甲七桜)



七夕飾り作りで笑顔に

〈山口〉豊浦病院

7月7日の七夕に向け、療養病棟にレクリエーションができるスペースを設け、患者さんが七夕飾りを作り、短冊に願いごとを書きました。
 ベッドから少しでも離れ、季節感のある楽しい時間が過ごせたらと、レクリエーション担当のスタッフ3人が企画。



「紙繰りも作れるよ」「願いごとは何にしようか」「若い頃、幼稚園の先生をしていたから折り紙は任せて」と、皆さん笑顔でいろいろ話しながら作っていました。



拡張工事が始まります。11月までを第一期工事、12月から翌年3月までを第二期工事として、年度内完成を目指します。
 新しいクリーニング工場の処理能力は現在の約1・5〜2倍。完成後は皆さんと一丸となり、多くの作業をこなしていきます。

(主任 満永祐介)

昼食は屋外で鉄板焼きそば

〈兵庫〉特養ふじの里

5月14日、デイサービスの利用者さん25人が、昼食時に当施設の玄関前広場で焼きそばを食べました。

小山温史管理栄養士が調理の実演イベントを企画し、厨房職員に鉄板で焼きそばを作っても



りました。

当日は5月と思えないほどの快晴。屋根の下にテーブルを設置して直射日光が当たらないように工夫しました。屋外で食べる焼きそばは普段と違う雰囲気、利用者さんも「おいしかった。良かったよ」と満足した様子でした。

(デイサービスセンター管理者・生活相談員 山下芳樹)

〈茨城〉水戸済生会総合病院
国際共同治験で表彰

循環器内科の樋口基明部長は6月19日、来院した製薬企業の開発担当者から、海外で先行開始されている心不全治療薬の国際共同試験において「日本で最初の治験薬投与を開始した」として表彰を受けました。



当院の治験を積極的にけん引する樋口部長は、コロナ禍収束前の昨年から立て続けに4本の新規試験を実施。患者さんのQOLを最優先しながら日々治験の満了に努めており、これまでも何度か表彰されてきた中で新たな表彰となりました。樋口部長は「これからの可能性を示しうる治験に多く関われることは光栄であり、今後もスタッフとともに尽力していく」と決意を語りました。

（治験管理室 栗原茂仁）

山口総合病院
南棟新築に関する
職員説明会

当院南棟新築工事に向けた職員説明会を6月5・6日に開催し、職員約120人が出席し



来場した8組14人は、院内にお名前を掲示している銘板を見た後、リハビリテーション室で運転シミュレーターと電動車椅子・電動シニアカーを体験。この日は梅雨の時期ながら雨も降らず、電動車椅子とシニアカーの試乗は屋外のリハビリ庭園で行なうことができました。

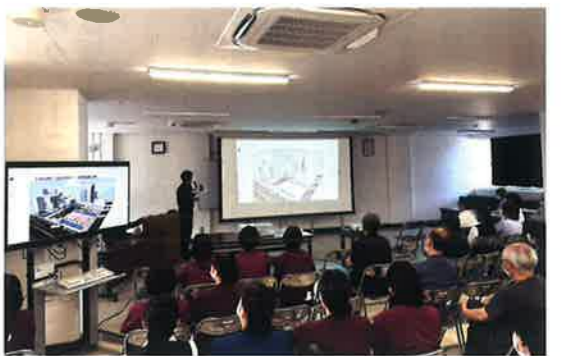
実際に機器を体験してもらい、この地域の移動問題や外に出ることの重要性などさまざまな話題を共有する機会となりました。

（済生記者 船橋麻紀）

福井県済生会乳児院
おにぎりキッチンカーで
心もお腹も大満足！

おにぎり専門店「おかわさちのまごころおにぎり」のキッチンカーが7月9日、当院にやってきました。元職員が手伝っているキッチンカーで、子どもたちにおにぎりを食べてもらいたいとの厚意から実現しました。

12人の子どもたちにとっては初めての体験。キッチンカーで目の前で握ってくれるおにぎりを見て、「おいしそう」「おにぎりできた！」と子どもたちの元



ました。

設計・監理者の久米設計（内田秀敏氏）、施工者の戸田建設（白木望氏）も同席のもと、はじめに郷良秀典院長が新病院建築の経緯と決定事項を報告。

その後、全体工程表と南棟工程表に基づき、おおむね半分で工事が進捗していること、工期が20カ月であること、工事の車両動線や躯体工事の完成時期、渡り廊下の接続工事時期などについて説明。また、南棟各階平面図ではどの階に何が入るか、動線の設計、CGによる総合案内や外来受付・待合、講堂についても明らかにされました。建築予定地はまだ更地の状態

ですが、10月頃から躯体工事が始まり、南棟建設の実感がわいてくるまであと少しです。

（建築準備室 白井啓二）

〈北海道〉小樽老健はまなす
ブルーベリー初収穫・
初出荷

北海道にもいよいよ本格的な夏がやってきました。当施設にある農園（そらし〜ど）ではブルーベリーが収穫できるまでに順調に育ち、7月17日、野村信平事務長を含む職員4人と入所者さん1人で初収穫しました。青々とたくさん実ったブルーベリーですが、熟しているものを探すのにひと苦労。それでも



1時間半くらいで約2・6キログラムを収穫。100グラムずつパック詰めにし、26パックをぶりもばっそ（就労支援事業所）に出荷しました。収穫した一部を入所者さんにおすそ分けしたところ、満面の笑顔で食べていました。

春に小学生と植えたジャガイ



モは、もちろん小学生に収穫してもらおう予定です。

（済生記者 伝法俊和）

〈熊本〉みすみ病院
CF導入機器のお披露目会

当院で昨年11月〜今年1月に実施したクラウドファンディングにご寄付いただいた方へのリターン（返礼品）の一つとして、6月30日に導入機器のお披露目会を開催しました。

理シリーズのまとめと位置付けた今回は「かかりつけ薬局」をテーマに、吹田市薬剤師会の嶋野陽子さんが薬局薬剤師の立場で仕事内容や制度などについて講演しました。

ディスカッションでは、薬剤師を巻き込んだ服薬管理について院内と在宅医療の多職種で考えるため、在宅医療の現場から整友会診療所の財田英穂医師、嶋野薬剤師、吹田特養高寿園の高田由紀子ケアマネジャー、院内からは薬剤師と在宅支援看護師がパネリストとして登壇。それぞれの立場からの意見や課題について話し合い、理解を深めました。

（ホームケア支援課主任

加藤尚子）



〈大阪〉吹田病院
多職種で話し合い
在宅医療の理解を深める

6月13日、「第5回在宅をともに考える会」をハイブリッド形式で行ない、過去最多となる95人が参加しました。

（済生記者 笹岡里紗）

〈新潟〉老健ケアホーム三菜
懐メロ歌謡ショーを堪能

6月12日、当施設で歌謡ショーを開催しました。ゲスト歌手は懐メロ伝道師として地元ではおなじみで、県内各地で活動されている西けんじさん。新型コロナウイルスの影響で楽しみが少なくな



っていた中、4年ぶりにボランティアをお願いしました。「東京音頭」に始まり、事前にご利用者さんがリクエストした「青い山脈」や「リンゴの唄」を含む十数曲を披露していただきました。曲の合間には軽快なトークも。皆さんで職員手製のうちわを振りながらメロディと一緒に口ずさんだり、手拍子を打ったりと、久しぶりの歌謡ショーを堪能していました。

（済生記者 天田浩代）

4年ぶり！
楽しい移動販売

〈山形〉特養やまのべ荘

6月12日、地元山辺町の八百藤さん（食料品・酒屋）の協力のもと、4年ぶりに移動販売を実施しました。場所は当施設の会議室。参加

者は16人でしたが、感染対策のため少人数ずつ案内しました。普段なかなか外出できず買い物に行けない入居者さんは、この日を待ち望んでいた様子。商品を見て触れながら何をかうか悩んだり、「ずいぶんと久しぶりでねえか？」「どれにするかなあ」と店員さんと会話したり

みんな笑顔で
七夕お楽しみ会

事業所内保育事業のなでしこ保育園では、7月5日に毎年恒例の「七夕お楽しみ会」を開き、47人の子どもたちが参加しました。

2歳児が染紙で作った短冊にご家族に願いごとを書いてもらい、色紙で作ったアイスクリームや星のお飾りと一緒に笹に飾りました。即席ミニプラネタリウムでは、天井や壁に映る星に「わあーっ」と大歓声が上がりました。七夕気分が一気に盛り上がり、今年も子どもたちの喜ぶ姿を

岡山済生会総合病院

岩田恭寛



想像して会を企画した先生たちですが、当日は先生たちが一

7月から心不全外来スタート

〈埼玉〉加須病院

番楽しんでいたかもしれません。なぜなら、私たちが心から楽しいと思えないと、子どもたちに

は決して伝わらないからです。（岡山済生会なでしこ保育園 園長 戸田佳子）

当院における心不全チーム医療の強化に伴い、7月から心不全

全看護外来を開始しました。心不全の治療を行なった患者さん

を対象に毎週火曜日に実施し、当院に5人在籍する心不全療養指導士が担当します。心不全療養指導士の一人である原岡彩葉看護師は「心不全は治療で症状が軽快しても、療養生活でのセルフケアが十分でない」と繰り返し悪くなる病気で、そのため入院中から看護介入を行ない、外来で患者さんと退院後の生活を振り返ります」と話します。

改善が必要な場合は、心不全療養指導士が患者さんとともに実行できる目標を立て、生活に即した療養支援を行なっています。

（済生記者 蓬田絵里子）

〈大阪〉中津病院

フレイル予防と
バランスの良い食事

大阪市北区大淀東・西地区住民向けの講演会を、6月24日に大淀南医療福祉総合施設SKホールで開催しました。

本会は、中津病院と大阪北リハビリテーション病院の地域包括ケア連携が企画。北区大淀地域包括支援センターと中津特養喜久寿苑に協力を得



に渡ります。講師は喜久寿苑の管理栄養士・阿部茉莉さんが担当しました。

当日は定員60人のところ66人の参加があり、アンケート結果も「また企画してほしい」ととても良好でした。

（地域連携・患者支援センター MSW 笠藤晋也）

Staff Station 5 東
スタッフステーション



静岡済生会療育センター 令和
お酒とおつまみで歓迎会

6月26日、新たに療養活動に参加する入所者さん2人の歓迎



会を行ないました。
今回は療養介護入所者さん13人による「大人の会」なので、おいしいお酒とおつまみを楽しみながら親睦を深めることに。ただし、ほとんどの人がお酒を飲むのは初めてなので、いずれもノンアルコールのビール、ワイン、日本酒を用意しました。
あたりめとデザートチーズをつまみに、まずはビールで乾杯！ 苦い味に驚いている人もいれば、ゴクゴクおいしそうに飲んでいる人もいます。それぞれ気に入った「お酒」が見つかったようで、おかわりする人もいました。
粋な趣向が功を奏し、とてもすてきな歓迎会になりました。新しい仲間との療養活動がこれから楽しみます。
（済生記者 大須賀彩音）

初めてのBCP訓練
（新潟）特養長和園

長和園の12事業所は6月23日、三条市の総合水害訓練と合わせて初のBCP訓練を実施し、各部署の管理者17人が参加しました。
これまでは各事業所の情報収



集は電話で行ない、園内に設置した災害対策本部で取りまとめたいため、電話対応の人員が必要でした。さらに、聴き取り間違いや正確な情報が伝わらないという課題がありました。
しかし今回は、令和3年に導入したLINE WORKSを活用。ライフライン、利用者・職員の安否、周辺の河川・道路状況、避難状況などを部署長が逐一報告し、一人暮らしで救助が必要な利用者さんの自宅へは職員が救助に向かいました。
LINE WORKSにより部署長が各事業所の状況を文字で正確かつ瞬時に把握できるようになり、電話担当の人員を災

（愛媛）松山病院
万のときに事務職員でも対応できるようになり

事務職員を対象としたBLS（二次救命処置）講習を、6月21・24・25日の3日間、院内救急処置室で開催しました。きっかけは、受付に来た患者



さんの体調が急変した事例があったこと。こんなとき、事務職員でも対応できるようにと企画しました。
当日は32人が参加。急性期々

ア専門士の資格を持つ当院の村文士外来看護師長が講師を務め、気道確保や呼吸確認の仕方、周りへの応援要請など一連の流れを説明。その後、訓練用のマネキン・AEDを使って実践しました。
胸骨圧迫では腕を垂直にすることを意識し、1分間に100〜120回の速さで行なえるよう訓練しました。一定の速さ、深さを保つのは想像以上に体力が必要で、命を救う大変さが身にしみました。
（医事課 筒井昭雄）

京都済生会病院
95年分の感謝を込めて

当院6階のリハビリ庭園には、常盤神社が鎮座しています。常盤神社は、1929年7月に当院が京都市北区に開設されて間もなく、旧病院にあった農園の東側に祀られたとされています。

1932年に当院に設立された「済生会社会部」の活動の一つとして、患者さんの病氣平癒を祈願するため毎年開院記念日に常盤神社で祭典が行なわれてきました。



7月2日は当院の創立95周年にあたる日。当日は長岡天満宮宮司、病院関係者ら約12人が参拝し、常盤神社例祭を厳かに執り行ないました。
95年分の感謝を伝えると同時に、今後も患者さんたちの病氣平癒、病院・職員と地域をお守りくださるよう祈願しました。
（企画広報室長 松岡志穂）

（長野）佐久市特養
シルバードキの

琴の音色で優雅なひととき

6月28日、当施設の地域交流室で琴の演奏会が開かれ、入居

者・利用者さん32人が参加しました。当施設に入居していた方のご家族が琴教室の先生をしていただくきっかけで始まった演奏会。コロナ禍が明けて5年ぶりの開催となりました。

当日は、琴の先生を含め6人の演奏者が開始1時間前から琴の搬入、組み立て、音合わせなどの準備をしました。会場に入った入居者さんたちは普段あまり目にしない立派な琴に感心している様子でした。
演奏会のプログラムは「よくら」から始まり「ふるさと」や「信濃の国」など、皆さんが知っている曲ばかり。演奏に合



〈滋賀〉老健ケアポート栗東
紫陽花と冷やしぜんざいで
季節を楽しむ

6月2日、当施設一般棟では梅雨の季節行事として利用者さん36人で折り紙の紫陽花を制作し、おやつには冷やしぜんざい



を提供しました。

紫陽花の花びらは折り紙を折ったり握ったりして作り、それを画用紙に張り付けて立体的な紫陽花の花を制作。完成した作品を見て、利用者さんや職員は「本当にきれいなね」「上手にできたね」との声をあげていました。

冷やしぜんざいは「冷たくておいしい」「また食べたい」ととても好評で、中にはおかわりを希望する人も。たくさん喜びの声に職員一同うれしくなりました。

（介護福祉士 辰見美咲）

〈福岡〉特養むさし苑

テストを無事パスして
防火管理者資格を取得

6月26・27日の2日間、近隣の生涯学習センターで開催された甲種防火管理者講習会に参加しました。筆者を含む80人が受講し、火災の発生原因や対処法、初期消火や避難計画の策定方法などの知識やスキルに磨きをかけました。

受講後のテストでは10問中6問以上の正解を求められますが、きちんと講義を聴いていれば問

を無事取得して修了証



題なし。合格点を取って修了証を受け取り、無事「甲種防火管理者」の資格を取得できました。

（済生記者 岸川涼二）

〈三重〉明和病院

「福祉の就職フェア」に
初参加

6月9日、三重県社会福祉協議会・三重県福祉人材センターが主催する「福祉の就職フェア」に初めて出展しました。

会場のメッセウイング・みえには県内の86社会福祉法人が集結。介護福祉士・保育士を



目指す学生や転職活動者ら約150人が来場し、当院のブースにも介護・福祉業界志望者がたくさん訪れました。



懐石料理と温泉で
心も体もリフレッシュ

〈静岡〉川奈臨海学園

明和グループは病院以外にも同じ敷地に特養や障害児施設を併設。介護職員の活躍の場が幅広いことが大きな強みとなり、来場者を施設見学やオープンホスピタルへの参加につなげることでできました。

（済生記者 藤岡拓人）

6月19日、伊東市の温泉旅館「青山やまと」（山本智一社長）の招待を受け、児童34人と職員16人で旅館体験に出かけました。今回の体験は、将来を担う子どもたちに地元

の観光業や宿泊業について知ってもらいたいという山本社長の計らいで実現しました。一足早く旅館に着いた小学生たちは、館内や入浴のマナー・注意点の説明を受けてから温泉へ。露天風呂やサウナを思う存分楽しみました。

夕食は地元の旬の食材をふんだんに使った懐石料理を堪能

食事前には料理長の実演による出汁の取り方講座もありました。また、旅館の仕事のやりがいや接客時に気を付けていること

富山病院

社会に学ぶ「14歳の挑戦」
中学生が病院の仕事体験

7月8〜12日の5日間、富山市立岩瀬中学校2年生4人が当院で病院の仕事体験しました。これは、県内の中学2年生を対象に行なわれている職場体験学習「社会に学ぶ「14歳の挑戦」」の一環です。

4人ははじめに院内を一巡してから、病棟、リハビリテーション科、栄養管理科、薬剤部の各業務を見学・体験しました。病棟では患者さんの移動や入浴の介助を行ない、レクリエーションにも患者さんと一緒に参加。談笑しながら



折り紙や塗り絵を楽しみました。生徒さんが「将来は看護師になりたい」と話すと患者さんは大変感心した様子で、温かく和やかな時間が流れていました。

（済生記者 浅野由紀）

など、実際に働く人たちに聞くこともでき、とても充実した旅館体験となりました。

（済生記者 鈴木一大）

管財課として独立し業務改善を推進

当院は3月から地域医療構想に準じ総病床をダウンサイジングするとともに、病床機能として急性期病床を削減し回復期病床を増床しました。併せて、医師のみならず看護師など医療従事者のタスクシフトへの取り組みを進めているところです。
そんな中、総務課に位置付けられていた管財部門が今年度から独立し、管財課が誕生しました。現在は常勤職員2人体制。



〈福岡〉大牟田病院

施設設備等の管理から購入、保守・設備更新の起案など職域は幅広く、また専門性が求められる部署です。

課を独立させたことで、購入・更新等の申請ルートの整理と、決済までに要する時間も短縮されスムーズな運用が可能に。また、労働環境改善のため空調服も支給され、これから迎える夏本番への準備が整いました。

（済生記者 松岡 健）



〈愛媛〉松山特養
教会との久しぶりの交流

6月16日、当施設の近くにある松山西キリスト教会から、牧師さんを含む9人の慰問がありました。以前はクリスマスなどの時期などに子どもたちが来所していましたが、コロナ禍で中止に。4年ぶりの交流となりました。

ハンドベルの演奏が披露され、うっとり聞き入る利用者さんたち。また、慰問メンバーの女の子の演奏に合わせて「故郷」を皆で合唱し、穏やかでほほ笑ましい時間を過ごしました。最

後に、生花やメッセージの書かれた色紙をプレゼントされると、皆さん優しい笑顔で受け取っていました。
この機会に年2回の交流の約束をかわし、次回を楽しみに手を振ってお別れしました。

（済生記者 畑中利恵）

〈鳥取〉境港総合病院

院内託児所で「マグロ集会」

6月27日、院内託児所なでしこルームで「マグロ集会」を開催し、8人の子どもたちが参加



しました。
マグロ集会は、全国有数のクマグロの水揚げを誇る境港市が食育事業として、市内の保育園・幼稚園で実施しているマグロの勉強会です。写真や動画を見ながら、マグロは眠る時も泳ぎを止めないことや、水揚げさ

れる様子などを学びました。

巻き網漁を再現した劇では、園長をはじめ職員がマグロとイカに扮し熱演。イカを餌にマグロが捕獲されると、喜ぶ子もい



〈茨城〉水戸済生会総合病院
親子一緒に七夕祭り

当院の職員の子どもたちが通うなでしこ保育園では、7月6日に七夕祭りを開催し、園児と保護者合わせて43人が参加しました。親子で参加する行事は、コロナ禍以来実に5年ぶりです。
2歳児たちが作った「たこ焼きのおみこし」を担いで、元気な「ワッショイ！」の掛け声でお祭りをスタート。子どもたちと保育士でたこ焼きやかき水を



作ったり、魚釣りゲームをしたり、盆踊りを踊ったりして楽しみました。

子どもたちの作品と笑顔がお祭りを彩り、久しぶりの保護者の参加で楽しみは倍増。一生懸命準備をしてきた保育士たちもとてもうれしそうでした。

（なでしこ保育園 園長 小川 律子）

〈栃木〉宇都宮病院

ブロック会議で事例検討
地域力向上を目指して

6月19日、宇都宮市医療・介護連携支援ステーション運営業



（地域連携課 秋山綾香）

務委託事業として、今年度1回目の中央ブロック連携会議を当院研修室で開催しました。
当日は、担当する中央ブロックエリア内の関係機関から27人が参加。相談対応実績の報告、ネットワーク研修の説明が続いて、メインの事例検討が行なわれました。
当院からは、警察署内留置所から救急搬送されたことで初めて医療・介護につながった累犯高齢者の退院支援を実施した事例を提示。複数の阻害要因がある中で、医療・介護連携が十分に機能せず社会的入院が継続されたことの問題点や、今後の課題について協議しました。

topics

7月5日、5年ぶりの七夕コンサートを病院ロビーで開催し、守山琵琶湖よし笛アンサンブルの皆さんが七夕や夏にちなんだ全9曲を演奏しました。

本コンサートは患者サービスの一環でCS（顧客満足）委員会が企画。よし笛は琵琶湖周辺などに生える葦で作られる滋賀県発祥の楽器で、琵琶湖を渡



「よし笛」コンサート 琵琶湖を感じる

〈滋賀〉守山市民病院

員集まって踊りました。手拍子をしたり、手を動かしたりして職員と一緒に楽しむ姿も見られました。（済生記者 岡田理沙）

七夕飾りで念願の一等賞 デイサービスセンター

7月5～7日に開催された



「湘南ひらつか七夕まつり」で、当センターの七夕飾りが念願の一等賞に輝きました。

当センターは七夕飾りコンテストの地区別部門に毎年出展しており、七夕の季節になるとセンター入口の屋根の上に直径9センチの大竹を設置し飾りつけします。今年も4月頃から利用者さん62人が余暇活動として色とりどりのテープを細く割いて丸い玉飾りを作ったり、好きな色で塗り絵をしたり、作業中の会話も楽しみながら少しずつ作り上げていきました。

7月4日の審査を経て、審査員が当センターに翌日届けてくれた賞状には「一等賞」の文字が！ここ数年は二等賞が続いていただけに、皆さん大喜び。



笑顔が輝いていました。

〈所長 八木谷忠士〉

静岡DWA T出前講座 ワーク春日

静岡DWA T（災害派遣福祉チーム）の出前講座が、6月18日に生活介護事業所ゆいまあるで開催されました。

静岡県社会福祉協議会の主催



で、当日は約20人が参加。能登半島地震の支援活動に参加した当施設支援課の平島義正さんが講師を務めました。

講座では、静岡DWA Tの役割を紹介するとともに、災害派遣時に使用する道具の使い方

3年ぶりの七夕まつり

7月4日、ふじの園ホールで3年ぶりの七夕まつりを盛大に催し、入所者さん・デイケア利用者さん・職員合わせて約50人が参加しました。

笹飾りを準備し、ホール中央にやぐらを組み、職員はユニホームから浴衣に着替え七夕ムード満点です。屋台、お菓子釣り、輪投げ、ボール投げ、かき氷のコーナーが設置され、皆さん好きな場所で思い思いに楽しめました。

〈済生記者 岡本龍馬〉



る風のような音色が耳に心地よく、吹き抜けになつて2階にも患者さんが集まりました。

ご当地ソング「琵琶湖周航の歌」の演奏では「皆で歌いましょう」と声かけがあり、よし笛の音色に患者さんの穏やかな声重なって琵琶湖を渡る風のようにロビーにこたえました。

〈済生記者 中嶋元香〉

「患者の集い」 がん患者対象に

〈大阪〉中津病院

6月29日、当院のがん患者さんを対象に「患者の集い」を大講堂で開き、20人の参加がありました。

メインプログラムは管理栄養士による講演。「患者さんと一緒に考える晩ごはん」というテーマで、内容は日々の食事の献立の考え方から化学療法中の食事についてなど、多岐に渡りました。その後、患者さん同士のおしゃべり会に移行しました。

参加者は「食事の話は興味深かった」「先生も参加しておっしゃべり会は有意義でした」と感想を述べました。

〈がん診療支援センター事務局 係長 浦田亜紀子〉



〈大阪〉中津医療福祉センター センター学会に321人

6月15日、第39回中津医療

福祉センター学会を開催し、321人が参加しました。

今回のテーマは「中津医療福祉センターと地域が繋がる新たな未来」で、口演とポスターに分かれて発表を行いました。

最優秀演題に選ばれたのは、口演が手術センターサプライ部・平松治さんの「サプライセンターにおけるスタッフ教育とキャリア開発について」、ポスターがハリバビリーテーション部の尾崎泰さんの「FIM導入における教育システム確立への取り組み」。10月10日の開院記念日に表彰を行なう予定です。

また、特別講演として上林春松家第15代当主の上林春松さんに、お茶の歴史や効能にまつわる「古今お茶の話」をしていただきました。

〈済生記者 鈴木亜希乃〉





**地元専門紙に
和田病院長取材記事**

〈北海道〉小樽病院

週刊「北海道医療新聞」6月24日号に、和田卓郎病院長の記事が掲載されました。当院が基幹型臨床研修病院に



り、お世話になった方々への感謝状の贈呈などを行ないました。おたのしみ会では親子で関わり遊びを楽しみ、大きなパラバルーンも登場！職員劇では子どもたちと保護者が笑顔で、「おきなかぶ」を鑑賞しました。

（済生記者 齊藤知夏）

**日常の介助に役立つ
トランスファー勉強会**
4月26日と5月2日の2日間、職員向けのトランスファー（移動乗動作）の勉強会を機能訓練室で開催し、多職種25人が一堂に会しました。この勉強会は毎年、

東神奈川リハビリテーション病院

指定され、来年度から研修医受け入れが可能になったことを受け、指揮を執った和田病院長が「話題の人」としてクローズアップされました。同紙は北海道内の医家向けに地域密着型の医療情報を提供する専門紙で、これまでも当院の情報や北海道済生会の取り組みが数多く取り上げられています。記事では、医療を核にしたまちづくりについても知見を深められるという、当院ならではの特色にも触れられています。

（済生記者 定 淳志）



新入職の看護師や介護福祉士、若手の療法士を対象に実施しています。講師は当院セラピスト部の理学療法士・真貝亜土さんが務め、中堅の理学療法士や作業療法士がアシスタントを担当。基本的な運動学的知識の確認から始まり、日常の介助での困りごとなどの相談に応じて、実践的なアドバイスが行なわれました。終了後のアンケートでは「もっと時間を長くって開催してほしい」との要望も多く、次回以降に向けて検討することになりました。

（セラピスト部 理学療法士 主任 篠田洋平）



〈兵庫〉小規模特養
なでしこ神戸

地域のクリーン作戦に参加

6月16日、地域のクリーン作戦に参加してきました。毎年職員のみならず参加しており、今年こそは利用者さんとも思っていたのですが、当日は朝から小雨模様。利用者さんは参加せず職員2人が近隣の公園などの清掃に加わりました。

クリーン作戦の後には、場所を変えて消火訓練です。地域の消火設備の設置場所と使用方法を確認し、実際に水消火器の使用を体験しました。今回は特別に、粉末消火器にチャレンジする地域の方もいました。

（看護小規模多機能型居宅介護 なでしこ神戸 管理者 池内茂雄）

長崎病院

**いざというときのために
防火・避難訓練**

6月25日、長崎市中央消防署



の立ち会いのもと防火・避難訓練を実施し、職員75人が参加しました。昼間帯の地震発生後、5階病棟スタッフ控室のコンセントから火災発生と想定。自衛消防隊長の諸岡浩明副院長から災害対策本部の立ち上げの指示を受け、管理棟1階ロビーに本部スタッフが集まりました。避難誘導班が統々と本部へ報告を行ない、トラブルなく、すべての避難が完了しました。訓練後、消防署から「自分の命を守るのが最優先であることを念頭に置き行動してほしい」との講評がありました。

（総務課 大川七海）

〈福岡〉大牟田病院
**昨年より大きな笹で
七夕まつり**

院内託児所ひまわりでは、今年も園児と一緒に七夕まつりの準備を行いました。昨年度から託児所業務委託を引き継いだので、七夕は2度目。園児の数が7人前後から12人に増えたこともあり、昨年より大きな笹を用意しました。

この1年で子どもたちは言葉と意味が結びつくまでに成長。星や月、スイカの笹飾りをワクワクしながら作っていました。ご家族には願いごとを書いた短冊を用意してもらい、7月4日に子どもと一緒に笹飾りをし



**多くの人に支えられて……
開所50周年**

静岡市心身障害児福祉センターいこいの家

当施設は7月1日に開所50周年を迎えました。昭和49年に静岡市春日町に開設。平成17年に城東町へ移転し、平成24年の法改正で「児童発達支援センター」になり現在に至ります。これまでに935人の卒園児を送り出

してきました。当日は開所50周年記念式典とおたのしみ会を開催し、多くの関係者が参加しました。式典会場には在園児55人の手形が色鮮やかに彩られた横看板を掲示。静岡市保健福祉長寿局長、静岡県済生会支部長からの祝辞があ

てもらいました。自分で作った飾りをしっかり握りしめ、親子で顔を見合わせながら飾っている姿がとても印象的で、ほほ笑ましい光景でした。

（院内託児所ひまわり 下川めぐみ）

滋賀県病院
地域の救急医療発展のため
クラウドファンディングに挑戦

6月11日から3カ月間、「10年間の献身が生んだ成果…次世代のドクターカーへの更新」と題したクラウドファンディングに挑戦しています。



アに取り上げられ、7月2日にはKBS京都Radioの「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」に越後整・救命救急センター長が電話で生出演し、ドクターカーの重要性について話しました。7月に入り、目標額の折り返しとなる1000万円に到達。院内ではプロジェクトを盛り上げるため、専用ブースに進捗ボードを設置し、寄付金額が増えるごとにメーターが上がる仕組みにしています。また、多くの励ましの言葉や地域の救急医療に対する思いも寄せていただいています。

(済生記者 有馬真由美)

〈奈良〉老健シルバーケア
まほろば

各階でお誕生日会
勝負事でヒートアップ!

6月26・27日、各フロアで6月のお誕生日会を行いました。26日は3階で40人の利用者さんがさくらチームとあじさいチームに分かれて玉入れを実施。逆さまにした傘にボールを投げ入れるのですが、ある利用者さんは久しぶりの運動と勝負事に「暑いわ」と心身ともにヒートアップ。さくらチームが勝利しましたが、両チームとも楽しんでくれた様子でした。

(済生記者 林 嘉夏)



長野保育園
女子サッカー選手による
サッカー教室

7月11日、女子サッカークラブ「AC長野パルセイロレディース」の伊藤めぐみ選手と安倍乃花選手、コーチ2人が来園



し、年中・年長児29人を対象に「パルセイロサッカー教室」が開催されました。

年中児は、ボールに片足を乗せてバランスを取ったり、バウンドをさせたりしてボールの扱い方を丁寧に教えてもらいま

た。年長児は4グループに分かれてゲームを実施。「頑張れ!」と声援が飛び交う中、友だちと協力し合ってゴールを目指す姿がありました。

サッカー教室後も選手たちは、子どもたちと一緒に給食を食べたり、絵本を読んでもくれました。子どもたちは貴重な体験ができ、とてもうれしそうでした。

(済生記者 丸山 葵)

〈山形〉養護(盲)老人ホーム
山静寿

今年も短冊に願いを込めて

6月19日、1階と2階の食堂に分かれて七夕行事を行ない、46人の入所者さんが参加しました。

皆さん思い思いの願いごとを短冊に書き、職員が事前に準備



しておいた七夕飾りと一緒に笹竹に吊るして祈願しました。視覚障害がある人には職員が代筆して支援。和気あいあいとした雰囲気で行事を行なうことができました。

「100歳まで生きたい」「健康でありますように」「左右視力2・0に」などの切実な願いから、「歌手になりました」「本マグロ食べたい」などのユーモラスな願いまで。バラエティーに富んだ短冊の内容がしばし話題になりました。

(済生記者 丹 秀樹)

奈良病院
新駅・鉄道線路高架化
工事がスタート

当院前に2028年度を目途に完成予定のJR新駅と鉄



道線路高架化工事の起工式が、6月9日に行なわれました。本工事は奈良県・奈良市とJR西日本が進めているもの。当院の立地する奈良市八条・大安寺地区は(仮称)京奈和自動車道の奈良インターチェンジ(IC)や同ICへのアクセス道路の整備のため、JR関西本線の一部を高架化し道路と鉄道を立体交差化する必要があります。

起工式には、奈良県知事、国会議員、奈良県議会議員、地元関係者、工事を担当するJR西日本の関係者約70人が参加。新たな街づくりを見据え、駅前開発地区の中核病院としての役割を期待される当院の久永倫聖院長も来賓として参加しました。(副院長兼事務部長 森川 篤)



イ文化センターで「心臓いきいき100年人生」心不全を知る、防ぐ、治す!」をテーマに市民公開講座を開催しました。当日は、三重大学循環器・腎臓内科の土肥薫教授が「人生100年時代の心不全予防をみんなで考えていきましょう」と題し特別講演。当院からはハビリテーション課の角屋恵さんが「心臓リハビリテーションは裏切らない」、管理栄養課の西村萌さんが「快塩のススメ」について講演しました。

また、講演前には医師・心不全看護認定看護師による健康相談コーナー、臨床検査技師によるABI/PWV(動脈硬化)検査を実施。

催しました。認知症マフは、イギリスなどで利用されている感覚療法のツールの一つ。認知症で不穏な状態にある人が手に着けることで、穏やかさや落ち着きを得るよう設計されています。当院では患者さん、ご家族、ケア提供



195人の市民が来場し、健康への関心の高さがうかがえました。

(総務課 中西佑介)

福井県済生会病院 認知症マフを作ろう!

6月26日、職員を対象に「認知症マフ」を作るイベントを開催しました。



能登半島地震での支援活動経験を伝える報告会

(神奈川) 湘南平塚病院

能登半島地震の被災地での支援活動の様子を、報告会に含め66人の職員が参加し、多くの質問や関心が寄せられました。

(4北病棟 看護師 伊藤珠希)

者などが笑顔になればと思、「にこマフ」と名付けました。当日は50人超が参加する盛況ぶり。薬剤部の男性職員は「今まで編み物をしたことはなかったけれど、患者さんのためになるのであればという思いで参加しました。自分が編むことで少しでも患者さんに貢献したい」と笑顔で話してくれました。

(総務・企画課 山村健太)

援活動のために当院から派遣された看護師2人(時恵里花さんと筆者)による報告会を、6月11日に院内のなでこホールで行ないました。

筆者らは3月中旬から4週間、そして4月中旬から2週間、金沢病院でそれぞれ支援活動に従事。現地の済生会看護師と協力しながら、特に高齢者を主とする患者層に対応する中で、スムーズに業務を遂行することができました。

報告会には片桐真人院長を含む66人の職員が参加し、多くの質問や関心が寄せられました。



鹿兒島病院 島津家ゆかりの神社に参拝

当院から徒歩3分ほどの場所に島津家15代当主が主祭神の松原神社があります。6月13日、介護医療院・療養病棟の患者さん12人が、ご家族や鳳凰高校の看護実習生と一緒に松原神社に参拝しました。

今回の参拝は「患者さんたちにも季節感や開放感を味わってもらいたい」と有馬正恵病棟師長が発案。安全に開催できるように病棟職員と話し合いを重ねて計画したとのこと。

境内では社務所の方のご配慮により、車椅子の人も自分でおみくじを引くことができました。おみくじを職員に読み上げても

ステップアップ講座で地域のボランティアと交流

静岡市心身障害者ケアセンター

6月26日、静岡市社会福祉協議会主催の「エリアボランティア」ランティアステップアップ講座」が、城東保健福祉エリア保健福祉複合棟ボランティア交流室で開催されました。

当日はエリアボランティア12人、当センターの利用者さん9人、職員2人が参加。当センターにも作業療法士として来ていただいている伊井玄さん(静岡



らい、笑顔の患者さんたち。「いつもよりおしゃべりが多く、表情も良い」とご家族もうれしうでした。

(済生記者 竹中康代)

心不全予防を考える 市民公開講座に195人

6月9日、農業屋コミュニティ



済生会療育センター(令和)の講義「作業療法士ってどんなお仕事?」を聴講しました。

その後は、ちぎり絵の時間。ボランティアと利用者さんの間に自然と会話が生まれ、和気あいあいと作業が進んでいきました。

私たち職員もボランティアとの交流を通じ、当センターのことを地域の皆さんに知ってもらいやすい機会となりました。

(済生記者 西野正美)

〔栃木〕宇都宮病院看護
専門学校

看護観発表会で決意表明

5月24日、多目的ホールで「看護観発表会」を開催し、保護者、在校生、病院関係者など177人が参加しました。
第一部は、1年生33人による「自分の大切にしたい看護について」の決意表明。第二部は、ナイチンゲール像から灯を受け、2年生全員で考えた「誓いの言葉」を力強く宣言。厳かな雰囲気の中、キャンドルサービスを行ないました。灯を手に会場内を一步一歩進む学生の姿は、これからさまざまな経験を積み、看護師への道を歩んでいく姿に重なるものがありました。
発表を終えた2年生は「本日は誓った言葉を胸に仲間と協力し助け合いながら一歩ずつ進んでいきたい」との思いを抱いていました。
(教員 千葉邦子)



奈良病院

院内デイケアで
快の刺激

入院中は刺激も少なく、最近では患者さん同士でお喋りする機会も減りつつあります。訪室するたびに「退屈やの〜」の声が開いてきます。そこで、病状の安定した高齢の患者さんの入院生活を少しでも楽しく、快の刺激を体感してもらえよう、昨年7月から「院内デイケア」を始めました。
6月は、並べたペットボトルを丸めた新聞紙を投げて倒すゲームに挑戦。ボトルに少量の水を入れることで倒れにくくなり、難易度も少し増します。一心不



乱に投げる人、慎重に狙って投げる人。それぞれが思い思いに楽しみ、1本倒れることに他の参加者からも大きな歓声が上がります。大盛況のうちに終わりました。
(看護部 老人看護専門看護師 森 玲子)

〔愛媛〕小田診療所

「肥満」をテーマに5講演
ヘルスアカデミーに80人

6月30日、第90回愛媛大学ヘルスアカデミーが、いよつ高島屋で開催されました。
当診療所には愛媛大学大学院医学系研究科地域生活習慣病・



の面から講演を行ない、約80人の参加者はメモを取るなど熱心に聴講しました。
後半には参加者からのQ&Aコーナーがあり、多くの質問に各分野の先生方が回答し、



令和4年度
新任医師
臨床研修医 紹介

伊藤さんがドローン撮影を始めたきっかけは、広報誌の撮影で病院と海を入れた写真や、目を引く集合写真を撮りたいと思ったから。また、敷地内には患者さんがおり、車などの障害物も多く、安全に撮影するために資格が必要だと思い今回受験したとのこと。
伊藤さんは「資格を取得したことで撮影の自由度が高くなったので、安全を第一に、時間や場所を工夫してより表現力の高い写真や映像を撮影したい」と抱負を語りました。
(済生記者 安岡佳成)

大変有意義な時間となりました。
(済生記者 福岡博実)

〔山口〕下関総合病院

ドローン操縦の資格取得

当院映像情報室の伊藤晋慈さんが、ドローン操縦の国家資格である「無人航空機操縦士」を取得しました。
伊藤さんは広報誌、イベントや勉強会など、多岐にわたって写真や動画の撮影・記録を担当。当院一筋40年以上のキャリアを持つ大ベテランです。
伊藤さんがドローン撮影を始

神奈川病院

病棟に広がるミントの香り

7月4日、病棟レクリエーションとしてミントのモイストポプリ作りを地域包括ケア病棟で実施し、入院患者さん8人が参加しました。
今回作成するモイストポプリは、夏を感じさせる海をイメージした飾り付け。
患者さんたちはスタッフの指導の下、涼しげなミントの香りに癒やされながら作業を進めました。
「この香りはとても癒やされる。作業も楽しい気分転換になった」ミントの香りが心地よくリラックスできた」との感想も。梅雨のじめじめとした空気を忘れさせるような、爽やかなミントの香りがデイルームいっぱいに広がり、病棟がいつも以上に和やかに感じられました。
(済生記者 小山友輝)



topics



和歌山病院 川上院長に功労賞の荣誉

5月22日に行なわれた日本整形外科学会・定時社員総会で、川上守院長が日本整形外科学会功労賞を受賞しました。

川上院長は長年にわたって整形外科学会として精力的に活動し、地域医療に多大なる貢献をしています。学術的でもシンポジウムの演者や座長を多数回務めるとともに、各種委員会でも重責を担うことで、後進の育成に力を注いできました。

吉報を受け、川上院長は「今回の賞を励みに今後も地域医療に根ざした病院として親しまれ、信頼される病院であり続けられるように精進したい」とコメント



山形済生病院 石井院長に学会功労賞

5月22日、福岡市で開催された日本整形外科学会・定時社員総会で、石井政次院長が日本整形外科学会功労賞を受賞しました。

この賞は、整形外科学および医療の進歩普及に顕著な功績があった医師に授与されます。石井院長は日本整形外科学会東北支部会長、日本整形外科学会員の監事を務め、同学会の学術集会でも教育研修講演やシンポジウム等を担当したことにより受賞。「これからも微力ながら

トしました。
(済生記者 松元靖寿)



念願かなった！ 4年ぶりの外出

6月18日、5階療養棟の入所利用者さんのうち状態の安定している9人が、買い物組と散策組の2班に分かれて外出しました。

当施設のケアワーカー・佐伯奏美さんの「利用者さんの外の景色を見せたい」という願いがかないました。

外には30分と短い時間でし

富山病院

新旧院長を囲む会で 職員同士が親睦を深める

新旧院長を囲む会を6月14・28日にホテルグランテラス富山で開催し、全職員約250人が参加しました。

両日とも亀山智樹新院長と前院長の堀江幸男顧問を囲み、たくさんの料理に舌鼓を打ちつつ、それぞれの部門・部署の垣根を越えて親睦を深めました。職員が一堂に会するイベントは令和2年以来4年ぶりです。

会場の雰囲気を一気に盛り上げたのが大抽選会。能登半島地震の被災地を応援する品々も用意され、一人また一人と抽選番号が読み上げられるたびに大きな歓声が上がりました。仕事時とは違う職員の表情が垣間見られ、終始笑顔の絶えない会になりました。

(済生記者 浅野由紀)

新潟病院

フィジカルアセスメントの 公開研修に8病院30人

7月1日、近隣病院の新人看護職員対象に「フィジカルアセ

スメント(呼吸・循環)」公開研修を当院で開催し、8病院から計30人が参加しました。当院のクリティカルケア認定看護師の竹田一洋さんが講師を務め、解剖生理や観察ポイントの解説、事例検討などを行ない



ました。2人1組となり互いの肋骨と肺の位置をビニールの上から書き合って理解を深め、聴診器の当て方、臥床患者の肺音聴取方法など実践を交えながらの講義となりました。

参加者からは「実際に書いてみたり分り分りやすくて学ぶことができました」「臨床に生かせる内容だった」などの感想がありました。

(教育研修センター 植木 文)

勤務医会と日整会のために貢献してきた」と思いを語りました。
(済生記者 小山結花)

〈広島〉老健はまな荘

だが、4年ぶりに利用者さんと施設の外に出かけることができ、利用者さんも職員も大変喜んでいました。

今年も猛暑が予想されるので、7月は当施設がある広島病院内の売店での買い物企画していますが、秋になったら外の風景を見られるような行事を企画したいと思っています。

(済生記者 佐藤 聡)



堀江顧問(右から3人目)

亀山院長

学生ボランティアと
笑顔あふれる交流

〈静岡〉特養小鹿苑

6月6日、静岡英和女学院高等学校の学生20人がボランティアとして来所し、およそ80人の入居者さんと折り紙のレクリエーションを通じて交流しました。



入居者さんのリクエストに応えてさまざまな作品を作り上げていました。中には「難しいな」と言いながら片手で集中して作品を作る入居者さんの姿も。最後は讃美歌の合唱が披露され、涙を流しながら聴き入る入居者さんの姿がとても印象的でした。

限られた時間ではありましたが、気がつけば互いに硬かった表情もほぐれ、自然な笑顔があふれる素敵な交流の場となりました。

（介護サービス課 介護員 小川卓也）

職員とパシャリ！
七夕撮影会でいい笑顔

〈新潟〉特養康和園

七夕を前に7月4日、当施設内で七夕撮影会を行いました。浴衣を着た職員が入居者さんの居室を訪ねていき、一緒に写真撮影。短い時間でしたが、ピースサインして写るなど楽しそうな様子で、写真を見ると皆さんとてもいい笑顔です。良いリフレッシュになったのではないのでしょうか。

また、施設内には七夕用の笹が用意され、笹飾りの短冊には入居者さんそれぞれの願いごとを書いてもらいました。一番多かったのは、やはり健康や食べ物についての願い。皆さんの願いがかないますように。



（済生記者 山田裕樹）

〈埼玉〉鴻巣病院
精神科看護活動に尽力
神保師長に会長表彰

6月28・29日に熊本で開催された第49回日本精神科看護学会で、当院の神保忍看護師長が会長表彰を受けました。

20年以上にわたり精神科看護に従事している神保看護師長は、当院では精神科救急病棟の看護師長を務めています。精神的な急性症状や危機的状況にある患



者に対して、迅速かつ適切な治療を提供すること、そして患者の生命を守り早期の回復を促進することが重要な病棟において、頼れる師長として精力的に病棟運営を指揮してきました。

さらに、看護学校等の講師や講演等に招聘されるなど、精神看護の分野で多岐にわたる活躍

が今回の表彰につながりました。
（済生記者 田島利恵子）

〈長野〉佐久市みつい
デイサービスセンター

「120歳まで
頑張って生きる」

6月20日、市内の成田山薬師



寺に建立されている「びんころ地蔵尊」へ利用者さん14人とドライブに出かけました。

佐久地方は日本でも有数の長寿の里。「びんころ地蔵尊」はびんびん（健康で長生き）、ころり（寝込まず楽に大往生する）という願いから命名されました。ニコニコ笑顔のお地蔵さ



（済生記者 山浦裕子）

クラファン挑戦中！
開始10日目で達成率42%

〈栃木〉宇都宮病院

当院が位置する県央地域で不妊治療専門施設が不足している現状を踏まえ、「不妊外来の開設」と「生殖補助医療の導入」を目指し、7月8日にクラウドファンディングを開始しました。当院は市内でお産を扱う唯一の総合病院として、安心して治療から妊娠、そして出産を迎えることができる環境を作りたいと考えています。



目標金額は1000万円。開始10日目にもかかわらず、達成率は42%となりました。

「不妊治療から出産まで同じ病院で行なうことができれば安心して出産することができます」と思っています。「総合病院だからできる不妊治療に期待します」などたくさん温かい応援メッセージをいただいております。職員一同励みになっていきます。寄付は9月末まで募集しています。

（済生記者 川原彩花）

〔富山〕 なでしこ保育園
サーカスの招待券贈呈式
富山県全園児を代表して

7月2日、当園の遊戯室でポップサーカス富山公演（7月6日開幕）の入場券贈呈式が行われました。

今公演では、協賛の富山ダイハツ販売株式会社が県内の園児全員の（3万2000人）を招待同社の荻原道郎社長から、県内全園児を代表して当園の園児2人が「子ども入場券」を受け取りました。荻原社長の「家族でサーカスを楽しんでください」との言葉に対し、園児は元気な声で「ありがとう」と返事しました。



その後、ポップサーカスのピ

〔新潟〕 三条病院
5年ぶりの健康教室で
食中毒の予防と対策

6月28日、コロナ禍により休止していた健康教室を5年ぶりに開催し、6人の参加者がありました。

テーマは「食中毒の予防と対策」。北澤葵栄養士が家庭でできる食中毒予防として調理や食品保存における注意点を、早川



エロによるシヨウがあり、ジャグリングや一輪車が披露されました。子どもたちはビエロの話術と技術に引き込まれ「すごい！」と目を輝かせました。

（主幹保育教諭 堀田理恵）

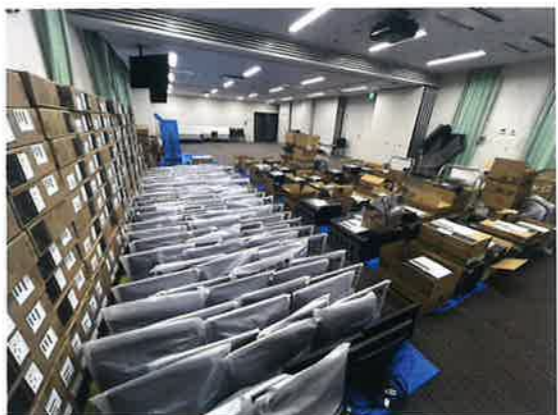
陽子感染管理認定看護師が家族が食中毒になったときの対処方法について講義を行いました。その後、参加者に普段の手洗いをしてもらい、ライトで洗い残し部分を確認。参加者は「手洗いは気をつけてやっているつもりでも、洗い残しで自分のくせが分かった」との感想を述べました。

（済生記者 樋口拓也）

〔滋賀〕 守山市民病院
プロジェクト発足から半年
病院情報システムを更新

電子カルテ機能と端末機器を含む病院情報システムの更新を行なった当院では、6月17日から新システムによる診療を開始しました。

今年1月に「病院情報システム導入プロジェクト」をキックオフ。プロジェクトメンバー20人で全体スケジュールの共有や課題の検討、電子カルテシステムのバージョンアップとそれに伴う機能追加、新規導入システムの仕様確認や運用調整など計画



15のワーキンググループを立ち上げて進行し、予定通りシステムの移行を完了しました。また、システム更新と同時に再来受付機や自動精算機も新調。大きな混乱なく患者さんは利用していて、職員のカウンター業務の効率化も図ることができました。

（済生記者 中嶋元香）

〔熊本〕 みすみ病院
院長退任&就任パーティー

5月17日、熊本県済生会の職員を招待し、院長交代に伴う庄野弘幸前院長の慰労と吉岡正一新院長を激励するためのパーティー

イーを開催しました。当院の運営に開院当初から尽力してきた庄野前院長は「経営が厳しい中での交代は心苦しい気持ちもあるが、これからも支部全体の協力が必要不可欠」と挨拶。

バトンを受け取った吉岡院長は「苦しい経営状況ではあるが、何よりも職員のことを第一に考え、職員がやりがいを持って働ける病院を目指していきたい」と意気込みを述べ、会場からは大きな拍手が送られました。当日は院内外から105人

が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

（済生記者 船橋麻紀）

〔鹿児島〕 川内病院
地域医療への理解を深める
特別講演会

6月22日、厚生労働省の大島一博事務次官を招いて地域医療等に関する特別講演会「診療報酬・介護報酬改定と地域医療構想について」を開催しました。当日は寄山敏男院長の挨拶に



〔神奈川〕 横浜市東部病院
新生児用人工呼吸器が
届きました！

新生児用人工呼吸器2台の更新を目指して昨年11月から約3カ月にわたって実施したクラウドファンディングは、多くのご支援により目標額を達成しました。

5月31日には待望の人工呼吸器が無事納品されました。後日、支援者に報告するために、病棟で三角隆彦院長とNICUの医師、看護師、臨床工学技士で記念写真を撮影。実際に真新しい機器を目にして職員たちは「立派だね」「これで赤ちゃんた



ちが救えるね」と話しました。これからも皆さんの気持ちを胸に、新しい人工呼吸器で小さな命を救い続けます。

（済生記者 荒木愛美）

第14回 済生会生活困窮者問題シンポジウム 子ども支援フォーラム

令和6年
10/12 土



▲申し込みはこちら
(締切：9月28日)

開催時間 **13:00~16:00** (受付12:00~)

会場 **春日部市民文化会館 (小ホール)**

定員 **400名** 入場無料

どなたでも
参加可能です!



講演会

基調講演

壊されゆく子どもたち
—今私たちにできること、
しなければならないこと—

講師

水谷青少年問題研究所 所長
水谷 修 氏



プロフィール

1956年、横浜に生まれる。少年期を山形にて過ごす。

上智大学文学部哲学科卒業。横浜市にて、長く高校教員として勤務。12年間を定時制高校で過ごす。教員生活のほとんどの時期、生徒指導を担当し、中・高校生の非行・薬物汚染・心の問題に関わり、生徒の更生と、非行防止、薬物汚染の拡大の予防のための活動を精力的に行っている。

また、若者たちから「夜回り」と呼ばれている深夜の繁華街のパトロールを通して、多くの若者たちとふれあい、彼らの非行防止と更生に取り組んでいる。一方で、全国各地からのメールや電話による様々な子どもたちからの相談に答え、子どもたちの不登校や心の病、自殺などの問題に関わっている。

その現場での経験をもとに、専門誌や新聞、雑誌への執筆、テレビ、ラジオなどへの出演、日本各地での講演などを通して、子どもたちが今直面している様々な問題について訴えている。

主催：社会福祉法人済生会支部埼玉県済生会 彩光苑 (問い合わせ先: 048-755-2111)
後援：埼玉県、春日部市、春日部市教育委員会、春日部市社会福祉協議会、埼玉県社会福祉士会

シンポジウム

テーマ

**子どもを取り巻く
多様な問題を考える**

パネリスト

- 一般社団法人彩の国総合教育研究所理事長
畠山 清彦 氏
- NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク理事長
草場 澄江 氏
- ケアリーパー (社会的養護経験者)・株式会社 LIXIL
後藤 拓也 氏
- 社会福祉法人済生会支部埼玉県済生会彩光苑所長
田島 襄 氏

コーディネーター

- 大分大学・大分保護区保護司会 (元佐賀県済生会)
工藤 修一 氏



〔山形〕はやぶさ保育園
「プラネタリウムと駄菓子
心に残る」お楽しみ保育
7月5日、5歳児19人が「お楽しみ保育」を行いました。
朝から元気がいいいな子どもたちは、バスが出発するとすぐに歌を歌ったりお友だちと話したり大盛り上がり。あつという間に河北町の「サハトベに花」

〔愛媛〕松山老健にきたつ苑
**SDGsの取り組みで
使用済み天ぷら油回収**
3月から「きたつ苑SDGsプロジェクト」として、使用済み天ぷら油の回収を始めました。月1回のペースで職員の家庭から出た油を回収し、7月1日は1リットルのボトル10本程度が集まりました。
回収した油は、北吉田にある株式会社ダイキアックス・サステイナブル・パワーでバイオ燃

〔神奈川〕若草病院
**院内売店で
電子決済が可能に**
7月10日から院内の売店で電子決済ができるようになりました。
導入前日までは、昔ながらの現金のみ対応可能な古いレジ。買い物をする度に白いレシートに薄いインクで印字された紙きれを受け取っていました。
新たなレジを導入したことで各種クレジットカードはもちろん、交通系ICカードもバ



1コード決済も可能となりました。いよいよ、当院にもキャッシュレス時代が到来したのです。当院の本館は平成3年に建設され、まだまだ昔の趣を随所に残していますが、時代の流れに合わせた変化が求められています。今後も必要な変化のために努力をしていきます。
(済生記者 長澤伸哉)

に到着しました。館内ではプラネタリウムを鑑賞。初めて観るさまざまな星座や天の川の映像の迫力に、子どもたちは感動していました。
次に向かったのは天童市にある「んだごんぱ」という駄菓子屋さん。百円玉を握りしめてそれぞれ好きなお菓子を買いしました。帰りのバスの中では、自分で買ったお菓子をお友だちと見せ合う姿が見られました。
子どもたち一人ひとりが終始とても満足そうな表情を浮かべており、とても充実した一日となりました。
(済生記者 齋藤里奈)

料の製造に利用されます。捨てればゴミですが、生かせば資源となり、新しいエネルギーに生まれ変わります。
環境にやさしい事業に取り組む地域の企業に協力することで、自分たちの手で自分たちが暮らす環境の保護につなげたいと考えています。
(リハビリテーション課 田本友太)



スペシャルオリンピックス 長山さん、銀メダル

〈東京〉中央病院



スペシャルオリンピックス日
本・東京夏季地区大会が開催さ
れ、6月23日
に行なわれた
バスケットボ
ール競技にお
いて、当院に
勤務する長山
直さんが銀メ
ダルに輝きま
した。

スペシャル
オリンピック

スは主に知的発達障害がある人
を対象とした競技会で、夏季の

福岡総合病院

ユマニチュード考案者から ケアを学ぶ

ユマニチュードの考案者であ
るフランスのイブ・ジネストさ
んと、日本にユマニチュードを
広めた日本ユマニチュード学会
常任理事の本田美和子さんの講
演を、6月24日に当院で実施し
ました。

ユマニチュードはフランス発
祥の認知症のケア技法で、「人

間らしさを取り戻す」という意
味の造語。高齢者や認知症者と
のコミュニケーションに有効な
ケア技法とされています。今回
総合診療部主任部長の田中和豊
医師の尽力により、特別に病棟
での実践と講演が実現しました。
先駆者2人から直接レクチャ
ーを受けられるとあって、医
師を含む職員126人が参加。
「ユマニチュードの大切さが分
かった」「自分も実践したい」
など、今後に役立てたいという

東京地区大会はコロナ禍で中止
となったため4年ぶりの開催と
なりました。6月8日に開会式
が行なわれ、競泳、陸上、チア
など11競技に約500人のア
スリートが参加しました。
長山さんは現在、病棟で看護
助手として働きながら土日は練
習に励み、2027年にチリ
で開催予定のスペシャルオリ
ンピックス世界大会を目指して
います。

〈人事課 ジョブコーチ 磯崎恵午〉



クラファン目標達成！ 手術支援ロボット導入へ

〈奈良〉中和病院

4月1日から挑戦していたク
ラウドファンディングが5月29
日をもって終了しました。

賛同いただいた256人か
ら総額2033万2000
円の支援が寄せられ、第1目
標の1000万円、第2目
標（5月上旬に再設定）の
1500万円を大きく上回る
結果となりました。

開始当初は不安と期待が入り
交った日々でしたが、地域の
皆さんや支援者の方々からの多
くのエールやメッセージに励ま

意見が多くありました。

〈経営企画課 木下昌子〉

居室での面会がついに解禁

〈兵庫〉特養ふじの里

オンラインやバーチャルシ
ョン越しでの面会を経て、6月1日
から4年ぶりに居室でのご家族
との面会が可能になりました。

新型コロナウイルスの影響で面会制限
が始まってから入居した利用者
さんにとっては、初めての居室
での面会。ご家族も「こんな感
じなんです」と初めて上がっ
たフロアに興味を示し、職員に
いろいろなお話を質問していま
した。入居者の皆さんが普段生
活するプライベートな空間で、
久しぶりに家族水入らずの時間



師を招いて行なっていました。現
在は、4月に着任した田中一
也支援部長が体育教員の経験を



生き生き体操で健康づくり

〈神奈川〉金沢若草園

当園では利用者さんの健康づ
くりのため、月2回の「生き生
き体操」を行なっています。

を過ごせてうれしそうでした。
久々にフロアに赤ちゃんの泣
き声、入居者さんご家族の話
声や笑い声が響き、職員もと
も楽しい気持ちになりました。
〈西館介護課 ユニットリーダー
山口貴美子〉

され、ゴールまでたどり着くこ
とができました。

寄付金は、手術支援ロボッ
ト (da Vinci Xi) の導入費用
の一部として活用する予定です。
皆さんからの期待に添えるよう、
患者さん一人ひとりに最適でよ
り良いがん治療に努めていきま
す。 〈済生記者 米井 悠〉

七夕の飾り付けに思う

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑

7月7日の

七夕は、当苑で
も短冊に願い
ごとを書き苑
内に立てた5
本の笹に飾り
付けをしまし
た。笹は毎年駐
車場の地主さ
んに許可をも
らって取って
来ています。

「願いごとは何
がいいかね?」
「そんなすぐに
は思いつかな
いよ」など、少
し消極的な入
居者さんとい



ましたが「気軽になんでも」と
一声かけると、「幸せになる」お
金持ちになる」「健康に過す」
など、たくさんの願いごとが出
てきて圧倒されました。
静岡には清水の七夕祭りがあ
ります。毎年きれいに飾り付け
られた商店街を、昔は着物を着
て歩いたものだと入居者さんと
振り返りました。来年は七夕の
商店街に出かけるのもよいので
はと思っています。
〈済生記者 石田遼祐〉

『屋上庭園、を憩いの場所に』

〈北海道〉小樽老健はまなす



に、使われていなかった屋上の活用を検討。ウッドデッキ調の

当施設の農園（はまなすガーデン）「そらし〜ど」では野菜やブルーベリー等を栽培していますが、足場が悪く通所利用者さん・入所者さんが利用しにくい状況にありました。

そこで野村信平事務長を中心

パネルを敷き、ブルーベリーの鉢を一部移動させ、屋上庭園として開放することに。

オープン初日の7月3日から、屋上に入所者さんの姿がありました。ブルーベリー鉢の雑草を抜いたり、椅子に座って景色を眺めながら職員と雑談したり。大満足の様子で「また明日も行きたい」とうれしそうでした。

今後はプランターなども設置し、リハビリとしての利用や、交流・憩いの場所としても活用していく予定です。

（済生記者 伝法俊和）

〔がんも生活習慣病〕
地域で市民公開講座

〈大阪〉吹田病院

当院がある吹田市に隣接する大阪市東淀川区と近隣住民を対象に、6月22日に市民公開講座を大阪市立東淀川区民ホールで開催しました。当院がん診療支援センターの主催で、当日は49人の参加がありました。

講座のテーマは「がんも生活習慣病」。開会挨拶の後、島俊英院長による「がんも糖尿病の合併症」をはじめ、「胆管癌のがんに対する手術を中心とした

がんサイバイバーで、現在も多方面で活躍中です。

当日は、AYA世代のがん患者さんへのさまざまな支援や取り組みなど大谷さんの精力的な活動についてや、患者視点での当院への意見などを伺いました。

（済生記者 蓬田絵里子）

〔福井〕特養聖和園
地域の福祉イベントで
利用者さんの日常に彩りを

7月7日、富田公民館で開催された「とみた福祉のつどい」に、利用者さん12人が参加しました。当日は最高気温35度の猛



治療「食べてがん予防！」食事のポイント」「がんと運動（自宅でもできる運動）」の合計四つの演題でそれぞれ演者が講演や運動の実演を行いました。参加者は熱心に演者の話に聞き入っていました。

（がん診療支援センター 鮫島正俊）

がんサイバイバー
大谷貴子さんとの
意見交換会

〈埼玉〉加須病院

日本初となる骨髄バンクを設

暑日で、利用者さんの体調管理には十分注意し、安心して参加できる体制を整えました。

地域の福祉の推進と住民同士の交流を深めるために平成8年から行なわれているイベントで25回目を迎えた今回は地域住民97人が参加。ステージでは民謡会「結人」による三味線の演奏や、地元の荒島保育園の園児たちの踊りが披露されました。また、当園から看護師1人を派遣し、会場で血圧測定や健康相談等を行ないました。

（済生記者 野尻 宗）

美声に酔いしれる
5年ぶりの
生コンサート

〈神奈川〉重症心身障害児（者）
施設サルビア

5月28日、当施設ブレイルームでエンターテインメントポーカーグループ「Starlights」のコンサートが開かれ、北綱島特別支援学校サルビア分室の生徒10人を含む入所者さん計36人が鑑賞しました。

同グループによるコンサートは15年ほど前からの恒例行事。コロナ禍ではオンラインでの実



施となり、対面で行なわれるのは5年ぶりです。

当日はゴスペルやポップス、なじみのあるジブリの曲、北綱島特別支援学校の校歌、そしてオリジナル曲までさまざまな曲を披露してくれました。

（済生記者 荒木愛美）



左から古賀さん、板橋院長、大谷さん

移植に成功しました。骨髄バンク創設に尽力した後にも内臓系のがんを罹患、それも乗り越えた

立した大谷貴子さんと板橋道朗院長による意見交換会を、7月10日に当院で行ないました。この会は、板橋院長が大腸がん啓発活動のアンバサダーを務める患者支援団体「キャンサーネットジャパン」の常務理事・古賀真美さんから加須市在住の大谷さんを紹介され、実現しました。

大谷さんは1986年に25歳で慢性骨髄性白血病に罹患。白血球の型が母親と適合し骨髄

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

汚物処理改革で 看護業務を効率化

京都済生会病院

岡本感染管理特定認定看護師

「看護」2024年6月臨時増刊号
(日本看護協会出版会)に、当院の
岡本教子感染管理特定認定看護師が

「看護業務の効率化先進事例アワード2023」(日本看護協会主催)で優秀賞(業務改善)を受賞した「汚物処理改革のススメ」を寄稿した。記事では、新病院移転を機にこれまでの汚物処理の課題(感染管理上



の問題、手間や作業時間など)を改善し、感染防止と業務負担軽減を兼ね備えた汚物処理室を作る過程に加

え、マセレーター導入による感染リスクの低減、作業時間の短縮、コスト削減の可能性などの成果について解説。「今後は作業時間の短縮のよってできた看護補助者の時間を有効活用してタスク・シフト/シェアを推進し、看護の質向上を目指したい」と締めくくっている。

(企画広報室長 松岡志穂)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください

ありがとう長澤画伯!

6月14日、本部で行なわれた済生会記者研修会の後……(神奈川)若草病院の済生記者・長澤伸哉さんにこっそりと見せられたのが、このキラキラな似顔絵です。テキストの装



飾にもこだわった出来栄え!(笑)

長澤さん、ありがとうございませした。次回は他の広報実務研究会幹事の似顔絵もお願いします!

(福岡・飯塚嘉穂病院 経営企画室 春口勇介)

★ぜひ幹事全員の似顔絵をお願いします。私の分は特にかっこよくデフォルメしてくださいね。

(本部広報課 河内淳史)

三角カバンに思いを馳せて

1月に参加した第76回済生会学会の記念として、コングレスバッグのお土産をいただきました。丈夫な帆布でできていて、通勤カバンとして毎日使っています。

カバンの内側には「三角カバン」



のラベル。三角は「みすみ」と読みます。熊本県の宇土半島の先端部には三角町があり、明治政府の殖産興業政策に従ってオランダ人水理工師ローウェンホルスト・ムルドルの設計で港が構築されました。そうして大型船の着岸が可能となり、あの三池炭鉱の石炭が世界に輸出されるようになった。平成27年に世界遺

産に登録されたその「三角西港」をモチーフにしたバッグこそが「三角カバン」なのです。なお、小さいタグは海上で船舶間での通信に利用される世界共通の旗です。3つの旗はそれぞれ、U、W、2。「UW2」で歓迎を意味するそうです。

(大阪・富田林病院 皮膚科部長 中川浩一)

★三角西港をモチーフにしたカバン、なんてすてきなんでしょう。三角町も訪れてみたい場所の一つです。

(メデイカル・リーフ 坂本陽子)

しばみつマドレーヌに惹かれて……

6月14日の本部での済生会記者研修会に参加した翌日。地域イベント「ふれ愛まつりだ、芝地区!」に中央病

院が出店すると聞きつけ、立ち寄りしました!

想像以上に大きなイベントで、会場は大勢の人でにぎわっていました。そんな中、スイーツをガラガラ引きながら訪れた私は、お土産に港区で採れたハチミツを使った「しばみつマドレーヌ」を大人買い。限定80個のハニーチーズスコーン(みんなとプロジェクト&戸板女子短期大学コラボ)も5個ゲットし、会場を後にしました。

貴重なしばみつで作られているのでどちらも美味しいのですが、特にハニーチーズスコーンが絶品!!

ばみつを贅沢に堪能でき、お土産にもってこいの一品です。

(岩手・北上済生会病院)

済生記者 掛川千恵子

★ハニーチーズスコーン。ほじおいしそうな響きがあるでしょうか。残りの75個、買い取りたかったです。(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

悪天候にも負けず全員ゴール!

第36回おたる運河ロードレース大会が6月16日に開催され、北海道済生会からもたくさんの方が参加しました。

小樽市長の号砲とともにコース別に順次スタート。小樽運河の北側から走り始め、運河に沿って北から南に向かい、当院周辺で折り返し、ゴールを目指します。

途中、雷と激しい雨に見舞われた選手たち。応援に来た職員も同じようにびしょびしょになりながらエールを送りました。

あいにくの悪天候でのレースでしたが、北海道済生会から参加した選手全員が完走! 入賞者も出るなど、日ごろの練習の成果を十分に発揮することができました。

(北海道・小樽病院)

広報室長 松尾覚志

★全員完走ってすごいですね! マラソン憧れますが、なかなか(物理



的に)重い腰が上がりません……。

(メデイカル・リーフ 岩谷純一)

秋に向けた決起会(となりました)

第44回済生会関東ブロック親善フットボール大会に参加するため、本番前日から水戸入り(今年水戸済生会総合病院担当)。さっそく居酒屋で、翌日の大会に向け決起会を行いました。佐藤雅彦病院長、名古屋恵子看護部長、清水吉則事務部長も参加し、二次会まで盛り上がりました。

メンバー23人の親睦も一層深まり、大会への志気も高まった本番当



日の朝。まさかの大雨で中止の発表が……。昨年敗れた鴻巣病院とのリベンジ試合ができず、残念でした。気持ちを切り替えて秋の練習試合に向けて練習を始めます!

(埼玉・川口総合病院 薬剤部 ソフトボール部監督 鈴木将大)

★中止は残念でしたが、こういう事件はいい思い出になりますね。秋は晴天に恵まれますように!

(メデイカル・リーフ 岩谷純一)

元同僚と50年ぶりに再会!

(山形)特養がまち荘でデイサービスを利用する武田とめさんは御年

101歳。そしていつも以上にご機嫌な武田さんの隣に座っているのは、佐藤千栄子さん96歳です。

実はこのお二人、昔勤めていた部品工場の元同僚。6月、武田さん家族が経営する飲食店に佐藤さん家族



武田さん(左)と佐藤さん

が来店し、50年ぶりの再会を果たしました。そのときに武田さんが当荘に通っていることを知り、佐藤さんも同じ曜日での利用を開始しました。

「あの頃は二人とも家や子ども、仕事のことなどいっぱい……なりふりかまわず稼いだね」「自分の弁当にかまっていられないから、おにぎりだけ持って出勤していた」など、工場での思い出話も弾むようです。

困難な時代を乗り越え歩んできたお二人の笑顔を見ていると、我々職員も負けていけないぞ！という気持ちがいってきます。今後も元気にがまち庄へ通ってくださいね。

(山形・特養ながまち庄)

済生記者 高見友都

★山形を代表する美魔女では……!?写真からすら感じる強さは、困難を乗り越え培われたものでしょうか。

(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

まるで絵本のように

(熊本) しらふじ子ども園の2歳児クラス・うさぎ組でのひとコマです。

職員に配布された機関誌「済生」を担任が見た後に、棚の上に置いておくと……それを取っていつの間にか見ている子どもたち。普段、子どもたちが見ている絵本よりも薄い



屋に向かい、夢中で手紙を書き始めました。それを見た他の子どもたちも「私も書きたい」「僕も」と、次々と感謝の気持ちを書いていました。子どもたちからの手紙6通は、すべて中島選手へ送りました。強くて優しい中島亜里紗選手、本当にお疲れさまでした。また遊びに来てください！

(静岡・川奈臨海学園)

済生記者 鈴木一大

★また会えるといいな。でも興奮した勢いで子どもがじゃれあって学園の壁に穴をあけないか……そつちが心配です。(本部広報課 河内淳史)



皆の願いをピカチュウに託して

毎年、静岡医療福祉センター成人部では清水七夕祭りの飾りを製作し

ページも、1枚1枚めくるのが上手になりました！

ページをめくって、にこにこ笑顔のおばあちゃんが見たら「かわいいね」と言ったり、チョウチョウのイラストを見つけたら、「チョウチョウ、チョウチョウ」と歌い始めたり。まるで絵本のように楽しんでいきます。

これからも、いろんな記事や写真を楽しみにしています!!

(熊本・しらふじ子ども園)

主幹保育教諭 住岡直美

★子どもから大人まで幅広い年代の方に楽しんでいただけてとてもうれしいです。ご愛読ありがとうございます！ (本部広報課 杉山菜央)

ウイディアさんのカレー

深刻な人手不足となっている介護士や看護補助者。済生会で働く姿を伝える企画をスタートしました。今月号は〈千葉〉習志野病院のミャンマー人看護補助者をお伝えしました。次号では鹿児島病院に勤務するインドネシア出身の看護補助者・ウイディアさんをご紹介します。

7月17日の取材後、ウイディアさんお手製のカレーをいただきます。鶏肉とジャガイモをココナッツミルクと香辛料で1時間ほど煮込んだカレーは絶品。一緒に取材した記



者がこのカレーの辛さは10段階でいくつ?とウイディアさんに尋ねたところ直球で返ってきた返事は「0(ゼロ)！」とまさかの11段階評価。後味はピリツと辛めなんですけど……。

今度、鹿児島に来たらまたご馳走してくれるとのこと。全国済生会ソフトボール大会にも出場するアクティブなウイディアさん。彼女が本気を出したカレーを食べてみたいような、ちよつと怖いような。(本部広報課 河内淳史)

切符の行方

6月14日の済生記者研修会に向かう道中、品川駅の新幹線改札を出ようとしたら、切符がない……!

広告索引

三井住友銀行
表紙見返し [表紙 2]

次号予告

済生 No.1143 [令和6年9月号]

済生会の不易流行論 (192) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 吉岡更紗

口福につぼん (84)

お家アフタヌーンティーセット (岡山県倉敷市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

★持ち主が見つめてくれるのを信じて弁当箱にしがみついていたのでしょうか。まさにド根性切符。

(本部広報課 河内淳史)

子どもたちの思いを込めた手紙

(静岡) 川奈臨海学園で毎年開催されるクリスマスプロレスに出場してくれていた中島亜里紗選手が、8月で引退するというニュースが飛び込んできました。

亜里紗選手の大ファンの女の子は引退を知ると、手紙を書きたいと部

今年も多くの人々が祭りを訪れ、当施設の作った飾りを見て喜んで





未来を紡ぐ、80年の絆。 地域の皆様と共に歩む 産科病棟の新たな一歩。

クラウドファンディング挑戦中

寄付募集期間

寄附金控除対象

2024年6月3日(月)10:00▶2024年8月31日(土)23:00

【本件の寄付は、社会福祉法人への寄付と同様に税額控除証明書を発行できます。】

80年にわたり、私たちの病院は地域の多くの家族と共に歩んできました。母と子の健康を守る場所として、数えきれないほどの新しい命の誕生を見守ってきました。そんな中で、時代と共に妊婦さんや赤ちゃんにとって必要な環境や、必要なサポートが変化していることを日々感じています。そこで、私たちは産科病棟の改修を通じて、未来今後も変わらぬ大阪北部のお産を支え、小さな命を守り続けていこうと考えています。

特に近年は感染症によりお産も大きな影響を受けました。当院でも、豊能医療圏でCOVID-19陽性妊産婦の積極的な受け入れを行い、今後も新興感染症に備えた設備の必要性を強く感じております。この改修が、妊婦さんや赤ちゃん、そしてその家族にとってより安心できる場所となるよう努めてまいります地域の皆様と力を合わせ、未来のお産を守り支え合いながら、これからも地域の一員として貢献していきたいと思っております。皆様の温かいご寄付をお願いいたします。

第一目標金額
2000万円

いただくご寄付の使い道

産科病棟の
リニューアル

クラウドファンディングとは

インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。

ご寄付・詳細は下記のサイトを
ご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/suita-2024>

吹田病院 レディーフォー

検索



皆で作ったおいしい煮梅

6月下旬、施設内の梅の木から梅の実を収穫。春先暖かく霜が降らなかつたためたくさんの実が付き、約6キロもとれました。

収穫した梅を食べられる状態にするための下ごしらえは利用者さんたちにお願ひしました。「昔はよくやつ

らえたと思うと、作業の苦勞も吹き飛んでしまいます。来年は何の絵にしようかな。
(静岡医療福祉センター成人部 済生記者 奥川詩織)

「たよ」と懐かしむ人もいれば、「やつたことないよ」と見よう見まねで作業に加わる人も。皆さん、爪楊枝を使ってヘタを取るなど根気よく細かい作業をしてくれました。
数時間水に浸してから冷凍してあく抜きをした後は、いよいよ煮る工程です。砂糖を加え、炊飯器で12時間保温状態にしておいしい煮梅が出来上がりました。

うつつうつつ梅雨の陽気を吹き飛ばすような爽やかな味わいで、利用者さんにも振る舞い大好評でした。
(長野・佐久市特養シルバード 済生記者 野沢景子)

★梅の種取りは根気が必要ですが、ハマりますよ。いつもはシロップを作りますが、今年は煮梅まねしうかしら。(本部広報課 杉山菜央)

アンケートにご協力ください

機関誌「済生」をご覧いただきありがとうございます。本誌に対する満足度やニーズを把握するため読者アンケートを実施しています。二次元バーコードからご回答をよろしくお願ひします。皆さまからのご意見を参考にして「済生」を編集してまいります。
(編集部一同)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人として活動している。

済生 [令和6年8月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和6年8月10日発行
通巻第1142号(第100巻第8号)

編集兼 炭谷 茂
発行人
発行所 社会福祉法人 済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311(代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人 済生会

職員数は全国で約6万6000人。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 119
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 66
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 405 (数字は令和5年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。



クラウドファンディング挑戦中
 こどもを望む願いのそばに

総合病院だからこそできる 不妊治療をめざして

寄付募集期間 2024年7月8日(月) 10:00 ▶ 2024年9月30日(月) 23:00
 目標金額 1000万円 ご寄付の使い道 不妊治療に必要な機器の購入

少子化が進む中、栃木県も例外ではなく2023年における出生率は47都道府県中37番目と全国でも低い状況にあります。一方で、不妊治療の需要は高く、こどもを望む方が多くいらっしゃる反面、ここ県央地域では不妊治療専門施設が不足している現状があります。

今回、この地域における不妊治療の裾野を広げることを目的に「不妊外来の開設」と「生殖補助医療の導入」を目指します。当院は宇都宮市内でお産を扱う唯一の総合病院として、この地域におけるお母さんと赤ちゃんのサポートを行ってまいりました。これまでの経験を活かし、この地域でこどもを望む全ての方々が、安心して治療から妊娠、そして出産を迎えることができる環境を作っていきたいと考えております。

新しい命の誕生と、多くのご家族の願いを実現するために、クラウドファンディングを通じて皆さまの温かいご寄付とご支援を心よりお願い申し上げます。



クラウドファンディングとは
 インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいとってくれる人から資金を募る仕組み。

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。ご寄付確定後の返金やキャンセルは、ご対応致しかねますので、何卒ご了承ください。

ご寄付・詳細は下記のサイトをご覧ください
<https://readyfor.jp/projects/saiseikai-utsunomiya>
 済生会宇都宮 レディーフォー 検索

